

2015 年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修 「学校教育研究フェスタ」アンケート結果概要

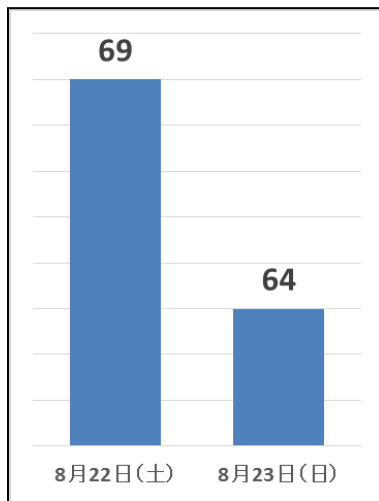
2015 年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修「学校教育研究フェスタ」において、研修終了後に研修評価アンケートを行いました。受講者の皆様にご記入いただいた回答結果の概要をお知らせいたします。

「学校教育研究フェスタ」

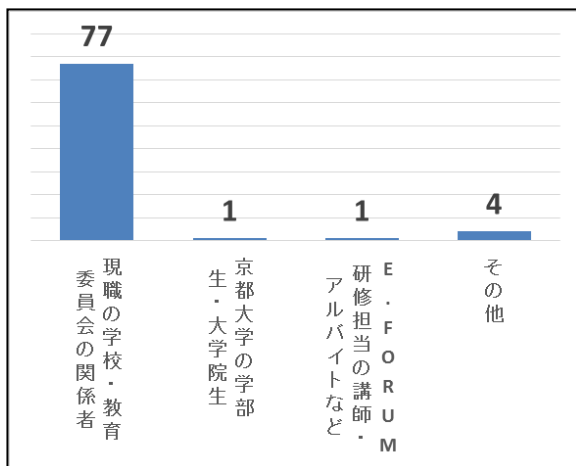
1. 開催日ごとの参加人数 ※半日のみ参加も含む

8月22日	93名
8月23日	81名
*回答者数	81名
	<u>延べ参加者数 174名</u>

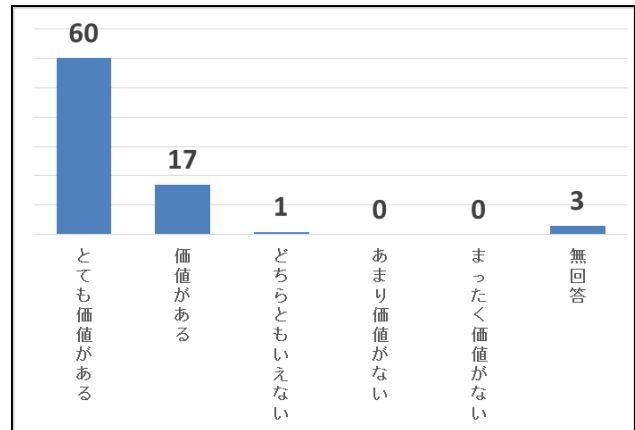
a. 回答者の開催日ごとの参加人数



2. どのような立場で参加されましたか(複数回答可)



3. 研修全体に対する評価



(以下は自由記述による事後評価アンケート)

4. 特に印象に残った部分(抜粋)

①講義

「グローバル化する教育と留学概念の転換」: 杉本

- ・ 講演の話の流れが、まさに「なぜそうなのか」、「これでいいのか」という問いに従って進められており、「なるほどなあ」とか「待てよ」と生徒になったようで考えながら聴きました。
- ・ 日本という国が少し特殊であることが感じられた。普段そういう目で見えていないので面白かった。でもやっぱり英語にしばられることははっきりしていますね。
- ・ 杉本先生に時間外にも質問に答えていただき、とても勉強になりました。日本社会だけでなく、日本の大学(高等教育)が世界的に見るととても特殊であることを認識させられるとともに、世界的にいえば多国籍企業ならぬ多国籍大学的な動きがどんどん進んでいることにある種のこわさも感じました。
- ・ この夏とある研修で、情報教育をテーマとした講義を受け、SNS で教育のあり方が変わっていく可能性を痛感したのですが、本日の杉本先生のお話を聞き、留学の体制がここまで変わってきているのも SNS の影響が大きいのではないかと思います。
- ・ 自分の娘が昨日、UK に旅立ったという事情もあって、大変興味深く聴かせていただきました。留学準備の過程で、欧米諸国が外国人学生から高額の学費をとることに驚いていたので、教育産業の「輸出」という視点に目からウロコの思いです。
- ・ トランスナショナル高等教育について、大変貴重なお話をいただき、ありがとうございました。昔の～大学日

本校を思い出しましたが、日本という非常に特殊な国では、あまり広まっていかないような気がします。先生自身はどう予想されているのか気になりますが、今度著作を拝読して確認しようと思います。

- ・ 今まで持ったことのない視点だったので、興味深かった。子どもの留学希望をよく聞くが、一つの提案例として考えていきたい。
- ・ 日本人にとっての「留学」は、その国で生活したり、文化や人に触れたりすることも含まれているように思います。外国に行かない留学は、やはりニセ物の留学でしょう。
- ・ 留学の概念が変わるということは、授業のあり方も将来的に変わっていくのではと感じました。
- ・ 留学について、まったく考えも及ばなかった領域でしたので、初めて学術的な研究を拝聴することができて、驚きでした。
- ・ “留学しない留学”、“トランスナショナル教育”、初めて耳にする言葉で新鮮でした。教育サービスがひとつの産業として成立しているのは、改めて考えるとすごいことだと思います。経済用語を借りると教育のアウトソーシング化とでも換言できるのかなと感じました。しかし、先生自身も言及されていたように、メリットばかりではないと考えます。日本において、トランスナショナル教育があまり普及しなかったのは、「現地に行つてこそ」、「異文化に触れてこそ」という日本人の国民性も関係しているのではないのでしょうか。「海外で学ぶこと」と「海外を観光すること」を兼ねている人が日本人には多いように思います。
- ・ 「教育サービスの輸出」という言葉をお聞きして、グローバル化の中で教育も市場経済にどんどん引き込まれていっていると思いました。杉本先生のおっしゃる通り、学生の質の低下は免れないと思います。この問題は国家の教育システムにもかかわってくるものだと思います。
- ・ 「留学しない留学」と聞いて、最初はピンときませんが、その実態や動きがよく分かりました。近年、日本人学生の「留学」(＝伝統的「留学」)は、少なくなる傾向にあります。一方で外国大学が1990年代に40校も進出したのにもかかわらず、ほとんどの分校が撤退したことは、どのように理解したらよいのでしょうか？外国大学の学位が「就活」ではあまり評価されていないことなど関係あるのでしょうか？
- ・ ありがとうございます。教育サービスの輸出がおもしろかったです。教育をいろいろな観点から考えることができて良かったです。
- ・ 教育サービスの輸出(入)によってまさに教育格差が生じていくことに強い興味と危機感をもった。そして、日本の大学はどうあるべきなのか、中高からはどのようなアプローチが可能なか気になった(あと、留学後の成果やフィードバックについても考えてみたい)。
- ・ “留学”という現象から、グローバル化への動き、現在

について認識を深めることができました。国境を越える教育という視座をもつと、国際化への教育実践も変わってくるように思う。日本の特殊性についても、印象的であった。そのことを知るものが“強み”へと移すことへの機会になるのだなと考えた。

- ・ 大学の生き残りや経済界の要請もあるのですが、英語がスタンダードになった世界で、はじめて今日的な留学の意味が出てくるのだらうと思いました。日本の生き残りの為に、英語力は必要なのかもしれませんが、中学校での一つの課題ですね。
- ・ 留学の概念が変化したというお話は、たいへん刺激的でした。そうすると教育プログラム以外の、例えば生活経験や文化・価値観(美意識のようなもの)はどう保障していくのか、それともそれが切り捨てられるのか疑問です。
- ・ 留学を強くすすめるような風潮が昨今の社会ではあるが、外で「何を学ぶのか」ということと同じくらい「どんな所で学ぶのか」が大切にもかかわらず、世界で何か起きていて、どんな状況なのかをよくわかっていなかったことを気づかせてくれた。大変有意義なものだった。
- ・ 自国が本人の意志で決められるという基準に驚きました。本人の意志と一緒に、責任も引き受けることになる。そのためには「能力」が必要になる。能力を身につければ、土地に縛られない…。教育の力を別の角度から感じることができました。+通信制研修のヒントにもなりそうです。
- ・ 留学の概念があいまいだという問題を丁寧にまとめて説明してくださって大変理解しやすかったです。
- ・ 学びの場をどう提供するのか、世界、どう選ぶとっていくのが難しい。
- ・ 日本の高校は、もっと留学を盛んにするようにして、大学での留学がスムーズに行けるとよいと思いました。
- ・ トランスナショナル教育が進展している状況や次のシステムについて詳しく理解することができた。その中で、自国の教育がどうあるべきなのかをしっかりと考えなければならぬと思った(質も価値も保障される留学のあり方が大切)。特に、島国ならではの感覚が当たり前になっていることにも気づくことができた。
- ・ 留学経験はありませんが、留学について少し興味を持ってました。トランスナショナル留学、日本の国立大学も法人化されて必要になってくるのでしょうか。
- ・ 留学といわゆる「生きる力」との課題が浮き彫りになっていることが興味深かった。
- ・ 現職場の留学制度の開拓を担当しています。留学の現状が詳しくお話されて、とても参考になりました。日本のグローバル化の課題も改めて考えさせられました。
- ・ 生徒の希望を聞いていると「留学に行く＝外国のキャンパスライフを楽しむ」。英語が喋れるようになりたい、は単なる理由づけのように聞こえる。そもそも日本の「留学」はどこか大学に所属した上で、どこか海外の

大学に行くこと。海外とは、留学の動機とかあり方とか、社会での扱われ方とか、そんなものが決定的に違う「教育文化」を日本は持っているのではないかと思った。

- たいへん興味深く聞かせていただきました。日本には、日本ならではの教育のシステムがあり、一定の成果をあげていると思います。その一方で、ボーダーレスの時代になり、世界中の人々が多様な文化的背景を持ちながら、協力して平和な世界を作るべき時代でもあります。これからの日本の教育について考えることができました。
- 自分との接点はあまりなかった内容でしたが、興味深く伺えました。日本が真っ先にトランスナショナル教育をして、真っ先になくなったことがおもしろいなと思いました。日本人は本物志向が強いのかもしれません。※国際バカロレアとの関連は(質問にもありましたが)、知りたいと思いました。
- 留学が経済の一つの分野になっているという実態に驚きました。学問することを金で考えるというのは、日本も便乗していいのか疑問に感じることができました。また中国・韓国からの留学生が多い理由の一端も分かりました。日本の「留学生」が遊んでばかりいるというニュースを思い出しました。また、国費留学・私費留学の違いも気になりました。
- 留学概念が一昔前と現在では大きく異なってきたということがわかった。ももとの「留学」で得られるものの方が、「学位」にとどまらず異国の文化・習慣・物の見方や考え方に触れられるという点で(得るものが)大きいと思う。杉本先生は、今後の日本の留学が(留学する・留学を受け入れる両方において)どうなることが望ましいと考えておられるのかお聞きしたかった。

②講義「児童期・青年期の発達と心の理解」：大山

- 子どもの発達段階を知ることの必要性を改めて認識しました。今回は広く網羅的な講義でしたが、一つ一つ詳しく聞きたいと思いました。自分でも勉強します。
- 発達の流れを意識した子ども理解という視座を得ました。
- 発達障害、またはその傾向のある生徒を中学でみてみると、小学校の時にどれだけケアされてきたかで、中1・2の時期の成長に大きな差が出ているように思っていました。そのことをしっかり考えるきっかけをいただきました。
- 普段、学校現場で直面している課題、興味、関心を持って聞くことができました。子どもの発達を理解することからスタートすることの重要性を再認識できました。具体的な対処方法なども教えていただき、参考になりました。ありがとうございました。
- 「教員は子どもとの年齢差が毎年広がっていく！」という大山先生のはじめの言葉になるほどそうだと感じました。これから目の前の生徒と接する中で、子どもの発

達段階の特徴を知識化することに努めていかなければと思われ知らせました。

- 「発達段階」にはとても関心をもっていますので、興味深く拝聴させていただきました。子どもたち一人一人、しっかり見て向き合っていかなければ…と感じました。
- 大学の教職課程で受講して以来、このようなお話を聞く機会がありませんでした。また学生であった当時は漠然と聞いていただけでしたが、教職経験(10年と少しですが)を積んだ上だと、具体的なイメージを伴って「なるほど」と思えることが多くありました。特に気づいた・学んだことが2つあります。発達障害の話で、行動を障害と結びつけて何でも理解してしまうということ。思わずはっとしました。もう1点は、生徒の現段階の状態(高校生を教えているので、高校3年間)の中で捉えていたことです。
- 大山先生の話聞きながら、いろいろな子どもの顔が思い浮かんできました。同じ学校に勤務する先生方と一緒に話を聞き、気になる子どもとの関わり方について、じっくり話をし、考え、共通理解していきたいと感じました。
- 教師は科学に基づいた指導をすべきであると思うので、児童期・青年期の発達については当然知っているべきことだと思います。その意味で、本日の講義は興味深く拝聴しました。
- 子どもの発達として、思い当たる例がありました(いくつかのTOPICを絞って事例を詳しくお聞きしたい気がしました)。子どもをよく見ねば…という意識を持つことができました。いくつかの対応策(言ってはいらないことなど)もためになりました。
- 思春期にばかり目が行きがちだが、前思春期が「潜伏期」であるとの指摘が新鮮でした。ただ…このところの低学年児童が潜伏していなくなってきたのか…という思いも持ちました。
- 思春期における問題行動が、前思春期や幼児期などにおいて“何か問題がある”という見方が分かりました。また、発達障害の生徒に対して、ちゃんと見るということをしなくなっていることに気がつき、反省をしました。
- とても勉強になりました。サザエさんは今でもよく見ます。四苦のない世界だから心が一時ほぐれるのだと改めて思いました。かつお君の年代から見ていて、今年波平さんと自分が同年になったとはびっくりです。「子どもがやらざるを得ない不安を理解する」、「ポジティブストローク」、「安易な約束は×」は心に響きました。
- 幼児期・児童期・青年期について分かっているようで、分かったふりになっている部分を整理していただき、よく分かりました。それぞれの発達段階の間をいかにつなぐかを実践家の立場から研究していきたいです。
- お話がとても整理されていて、言葉もすっと入ってきました。前思春期は本当に勉強になりました。高校でも勉強はできる(暗記など)ので、進学校にも明らかにADHDなどがいます。前思春期にケアすることは大切

だと感じました。また摂食障害や自傷など、生徒指導上、悩んだ経験があります。もっとお伺いしたかったです。病院やカウンセラーとのつなぎ方など…。

- 各発達期の特徴とそこで表れる特性、発達障害について、改めて説明を聞き、とても勉強になりました。クラスの子も達への関わり方など改めて見直していきたいと思いました。
- 分かりやすかったです。教育と医療の両面から現場では様々な生徒に対しての、教育の側に立つてのお話は参考になりました。前思春期の大切さ、現場では実感しています。ぜひ、広げていってほしいです。
- 前思春期の重要性など、自分が昔学んだのとは違う新しい研究の成果を知り、大変参考になりました。もっと具体的な事例などを聞きたいと思いました。
- 教育の本質にかかわる、しかし忘れがちな視点について、改めて専門的なご講義をいただき、有り難く感じました。広く職場の同僚に聞いてほしい内容でした。
- 児童の行動の背景を見とる際の観点を整理することができました。子どもと対応する際に発達障害だからこの観察をしてこの対応をすることが多かったことを反省した。ネガティブな行動をとる子どもが年々増加するため「この子はどうか」をより丁寧に見ていくことを大切にしていきたいと思いました。
- 日々、様々な生徒と向き合う中で、「心」を理解することの難しさ、またやり甲斐を感じています。特に最近、話題になっている「発達障害」の傾向が見られる生徒に対して「あの子は発達障害だから…」という見方をするのではなく、もっと色々な要因や背景を考えなくてはならない、という先生のご意見にハッとさせられました。経験や知識を重ねるについて、わかっているような気になっている自分を戒めて、純粋な目で生徒の心を見つめていきたいと思います。ありがとうございました。
- 大山先生、ありがとうございました。午後の講義にもかかわらず、全然眠気に襲われることなく、聞くことができました。先生の話は分かりやすく、大変参考になる内容でした。生徒たちを育てるために一番大切なものは、学ぶための生活基盤ができていくかどうかだと思います。そういう意味でも、大山先生の話は、生徒を観察するために知っておかなければいけない知識だと感じました。
- 大変わかりやすく、頭の整理ができました。また、新しい視点もいただきました。ありがとうございました。
- 大山先生のお話を聴きながら、何人もの教え子の顔が浮かんできました。診断名が出ると、その枠組みで見えてしまいがちになるという話が印象に残りました。現場でもよく聞く会話です。気をつけなければと思いました。
- 子どもの様相を発達の段階で捉えるよい勉強になりました。チーム学校が言われていますが、大山先生のよ

うな方が学校におられたら、大変教員は心強く教育活動できると思いました。

- 子どもの発達に対し、大人が子どもの発達を理解する機会を得ないままに関わることの多い中、大人の学びの必要性を感じた。目の前の子どもの姿をどう捉えるか、行動理解を進めて成長につなげていきたい。
- 日頃の生徒をイメージしながら聞きました。本当はもう少し詳しいのを聞きたかったけど、よかったですと思いました。発達障害の人とそうでない場合の区別ってどうするんだ？と思いました。
- アスペルガーだから、とかつい言っていたなあと反省しました。たしかに！何より大切なのは、本人を理解することでした。ポジティブな時に関わるというのなるほどと思いました。あかん時には何をやってもあかん。クールダウンする間、お互いに見えてくるものがありますもの。大変興味深く聞かせていただきました。
- 早々に発達障害と決めつけて子どもを見るのではなく、まず子どもの行動の背景を発達の視点からしっかり見ることが大切であるということ大切にしようと思った。専門的な疾患に対しても、学校や教員の立場としてどう対応するのがよいのかという視点でご教示いただいたことが有り難かった。
- 以前に強迫神経症の中学生を担任したことがあり、母親と共に児童福祉センターに出向いたり、精神科の医師に相談しに行ったりしたことを思い出しました。一般の教員も児童生徒の様々な症状や、なぜその症状が現れるのか、しっかり考える必要があると思いました。
- リストカットの子に関わったことがなかったので、その原因を以前から知りたいと思っていました。とてもよく分かりました。「ムシャクシャ」という誰でも起きる気持ち。それをうまく対処できるよう、予防できるよう考えたいです。発達障害も神経的な症状の子どもも、その裏の心理や、それまでの発達、親子関係をよく知らないといけな、探る・感じる大切と思いました。
- 今回受講した大きな理由は大山先生の話聞きたくったからです。しっかり筋道をたてて話をされていたので、分かりやすかったです。現在、摂食障害をかかえる生徒および保護者の対応に追われています。自分の接する方向性がより具体的になったと思います。ありがとうございました。
- ありがとうございました。わかりやすく現場に即し、また、自分を振り返る内容だったなと思いました。
- 中学校を担当していますが、虐待や発達障害の区別をこちらがしっかりと持っていないと見誤ったり、不登校の生徒に登校刺激ばかりになってしまったり失敗したり、私もやってしまいました。とってもわかりやすい講義でした。自傷行為も摂食障害も今までの事例と重なることが多く、良く理解できました。
- 新たな「児童期・青年期の発達と心の理解」が新鮮で、目から鱗でした。

- その子の特徴をまずみてあげること(診断とか病名などのラベリングをしないこと)の大切さがとてもよくわかった。また、自分が律していけている時、ニュートラル・ポジティブな時にアクション(褒めるなど)をとることも大切であることがわかり、とても良かった。
- 発達段階での特徴をおさえておかないと指導が大きな過ちをおかしてしまう可能性があることをよく理解した。その上で子どもをストレオタイプに見るのではなく、その子の文脈の中で理解して接するようにしようと気持ちを新たにすることができた。
- 目の前にしている子どもたちに何が起きているのか。そこをしっかりと見つめることの大切さに気づくことができました。
- 同じようなテーマの講義を聞くのが久しぶりだったので、特に発達障害についての専門家の方の見解も時代によって変わってきているようで安心しました。
- 非常に参考になるお話でとても良い学習の機会を得ることができました。サザエさんをはじめとして軽妙な例えも用意していただき、面白く聴くことができました。特に心の中に想像することがもてない現代という時代の危うさが印象的でした。本当に参考になるお話をありがとうございました。
- 興味ある講義でした。
- 教育現場にて、実際に生徒たちと接していると、本日拝聴したお話がとても納得できました。具体的に生徒の顔を思い浮かべながらお聴きました。
- 大山先生がおっしゃるように人は自分の子ども時代をすっかり忘れて、自分が昔から今の自分であるような気になってしまうので、生徒を指導する時に大きな間違いを犯してしまうのだとわかりました。各発達段階の知識とても有益でした。
- 様々な心の問題を対子どもとともに対教員という視点から聞かせていただいた。特に若手教員の教育にかかわる中で、様々な心の問題(心身症とヒステリー等)を抱えている教員が少なからずいる。どう支え、励ましていけばよいか考えさせていただいた。サザエさんの話をはじめ、いつのまにかできていた自分の“当たり前”を刺激することができた。
- はじめから終わりまで、一部の隙もなく面白かったです。研究と実践の統合の必要性を教科で感じることは多かったのですが、今回、改めて生徒理解や生徒対応にこそ専門的知見が必要なのだと思いました。また、大山先生のファンになりました。
- 発達の段階と子どもの行動の現れ、両方を見取ることの大切さがわかった。現場で「ラベル貼り」のようなことが多く行われていることがよくある。今回の話を伝えていきたい。
- 特に発達障害・精神病理の点が印象深く感じました。自分が授業していると、確かにネガティブな行動をした時にしか子どもと関わっていないなあと反省しました。以前(何年前か忘れましたが)、大山先生のお話を聞

いた時とはまた違った視点で興味深く拝聴しました。チャムシップのことについて詳しく聴きたいです(特に高学年の女子の友達関係と関連して)。

- 単なる概説ではなく、どう接したらいいのかの簡単なアドバイスをいただけて良かった。お話の仕方が淡々としているのに面白くて、こんな話し方をしたいなあと思いました。
- もっと詳しく知りたい内容ばかりでした。障害を見てしまっている自分にも気づかされました。一人一人を理解すること、ニュートラル・ポジティブな行動での関わりを大切にしていきたいと考えます。
- 子どもは今、どんな状況下でどんなことを感じて、どんなことを考えているのかの一つ一つをみる姿勢を心の内面の深いところで冷静にもつことがまず大事だと改めて認識しました。
- 日々の教育実践の中では、生徒とのかかわり等の出来事が次々とあつて、終われば忘却の彼方へと流れ去っていますが、今日の講義をお聴きすると、現実の生徒像が思い出されて、改めて理解することができました。貴重な機会をありがとうございました。
- 具体的な事例をもとにお話してくださったので、とても理解しやすかったですし、自分の経験と照らし合わせながら考えることができました。また、学校現場で生かすためのお話もあり、役に立ちそうだと思いました。
- 具体例を混ぜて、わかり易く講義してくださいました。生徒との距離感は、放っておけばどんどん広がってしまうので、こちらが発達や心の状態について学んでいくことがとても重要だとわかりました。

③シンポジウム&ワークショップ

「『E.FORUM スタンダード』を再検討する」: 西岡ほか

■全体

- 現在、パフォーマンス評価の研究をしているので、大変参考になりました。1年間研究を進めて、つくづく逆向き設計の大切さを感じております。このスタンダードが全国の先生方の取り組みのきっかけとなり、指導の改善が図られることを願っております。
- 本校でもパフォーマンス評価・課題に取り組み始めようとしています。ワークショップで色んな意見交換ができて、貴重な時間になりました。
- 現場の教員の悩みを共有できた。→よい本質的な問いをどう考えていくか、よい機会となった。
- 参考資料は、自分の教科のみに目を通していたが、全教科について先生方のお話をうかがうと、相互に参考になる部分があった。
- 各教科について共通している部分も感じられた(本質的な問い、永続的理解について横軸で繋がっている)。
- ものすごく体系的な「スタンダード」が作成されていて驚きでした。さらに、小中高と連携できるものが作られていくと素晴らしいと思いました。

- ・ 情報をたくさん提示していただき、ありがとうございました。教科の特性がパフォーマンス評価との関連に影響があることに再認識されました。
- ・ 非常に壮大で一過性では済まない多くの意義を持つ作業だと思います。今日、ほんの少し見聞しただけですが、ある意味、漠然と教えてきた自分にショックを与えるようなものだったと思います。本質的な問い・永続的理解について、今後、常に追い求めていく、頭に入れておくことにならざるを得ないと思います(もともと当たり前のことなのですが)。1年後よりその意義・有用性が理解できるようになっているのではと。
- ・ もっと早くから参加させていただきたかったと思った。熱心な先生方とのワークショップも盛り上がり、充実したものであった。
- ・ 時間がもっとほしいと思うくらい、一つ一つの提案・ワークショップが充実していました。自分の専門外の教科・校種が何を求めているのかを知ることはとても大切だと思います。
- ・ ありがとうございました。E.FORUM に参加した感がすごくありました。次の指導要領のこと等についてもよく知ることができ、嬉しく思いました。
- ・ 以前から「スタンダード」や「パフォーマンス課題」について話を聞いたり、教科で考え、おそらく比較的早い段階から取り組んできたが、他教科(芸術も含んで)の話も聞かせていただいたおかげで、教科としてどう取り組むことが求められているのが少し見えてきた気がします。
- ・ 各先生方の取り組みの真剣さと悩みが双方よくわかる内容であった。各教科でのスタンダードを各教科内だけで検討することも大事だが、それぞれのスタンダードの融和(重なり)をクロスオーバーして考えていくことも考えられそう。各先生方、本当にお疲れ様でした。有り難いです。
- ・ シンポジウムでは自分の教科以外のスタンダードをうかがい知ることができて、さらに、それぞれの特徴と問題点を披露してもらったことが新鮮であった。

■教科等別ワークショップ

- ・ ワークショップは、中学国語に参加。多くの示唆をいただきました。その上で、私見を述べます。「読むこと領域に焦点化したスタンダード」の作成をめざすのであれば、読む教材(文学作品 etc.)が、必ず必要なのではないでしょうか。そして「一応理解した」→「パフォーマンス課題に取り組む」ではなく、「初読から段階を追って読んでいく行為そのものがパフォーマンス課題を解くことにつながっていく」…そういった課題のアイデアを構築することが必要だと思います。
- ・ 八田先生の国語の話等、他教科のことを聞くのも良かったが、ワークショップの内容充実ということを考えると、始めから教科に分かれて、論議をした方がせつかくの提案も生き、スタンダードの改訂の方向性がさらに明確になったのではないかと考えます。

- ・ 高等学校地歴科・公民科のスタンダード作りについて、鋒山先生がどのようにお考えになっているかお伺いしたかった。
- ・ 全国の先生方との語らいは貴重。中学社会の立場からいうと、最初から教科でじっくり話したかったです。鋒山先生から直接伺いたかったです。
- ・ 数学はたかが計算でも一人一人やり方、理解の仕方が異なっています。そこをどう分析し、どう指導法を考えるのかに興味・関心があります。そこで「スタンダード」との関係を考えてみたいと思います。
- ・ 高校数学のグループに参加させていただきました。高校数学のスタンダードは提示されていませんでしたが、それでも現実世界におけるの数学を考えていくことは、とても重要なことだと再認識できました。
- ・ すべての教科の方針を聞くことができたことは、有意義であった。やはり教科の特性があり、細かい所は差異が出てくるのもうなずける。算数・数学の論証指導に興味がある。
- ・ とても良かったです。ただ高校の数学は難しいように思いました。
- ・ 例年に比べて、家庭科の先生が多く参加されていたとお聞きして、家庭科においても今後カリキュラム開発やパフォーマンス評価についてますます広まっていくように感じました。
- ・ 「家庭科」の改定案はかなり検討が必要な状態だと思いました。
- ・ 中学英語のワークショップでは、参加された先生方から様々なアドバイスをいただき、赤沢先生からも丁寧に説明していただき、有意義なワークショップでした。
- ・ 他教科でどのように組み立てられているのが少し見えてきたと思います。自分の教科でも生かせる部分は沢山あると思いました。理科ではあまり書くことを追求する場面が少なかったが、思考を深めていくためには読み・書く・聞く力はやはり重要でした。ぜひ国語を勉強したいと思います。英語科が can do を一生懸命作っていたのですが、なぜか分かりました。これも嬉しかったです。

■時間不足

- ・ もう少し時間をとって議論したかったのですが(連絡先を交換しましたので、また続きはE.FORUM後にやります)。
- ・ 本校の研究を進める為には、やはりパフォーマンス課題が必要であると再認識できました。後半のワークショップの時間が短かったので、もう少しじっくり議論をする時間があると良かったです。
- ・ 先生方の提案内容についていくのが精一杯でしたが、討議でさまざまな見方が出ていたので、もう少し時間が欲しいと思いました。
- ・ 時間が短すぎたので再検討…までいかなかったです。
- ・ 日程の関係で、やむを得なかったことは、西岡先生の

お話でわかりましたが、やはりもう少し時間がほしかった感がありました。会場の都合もあるかと思いますが、各先生方のお話の段階から教科ごとに分かれ、じっくりと説明を伺い、ワークショップができるとう良かったかなと思います。

- ・ シンポジウムの各論についてじっくり検討するために、以前やった形態の各グループ教科の分科会にしても良かったと思います。シンポジストの先生方の伝達情報の量が多いわりに速い(早口)からです。本当に理解を深めるために、ゆとりある時間配分を望みます。先生方とのディスカッションの時間が多くとありがたいです。
- ・ とにかく協議の時間が足りなかったと感じています。もう少しじっくり向き合いたかったと思います。全体説明の後には、教科ごとでよかったのではないのでしょうか。
- ・ とても良かったです。でも、もっとゆっくりたっぷり伺いたかったです。①をやめて(もちろん良いお話できた)③で午後 1:15~5:30 までやっていただけても良かったと思います。やはりスタンダードがこの会の核だと思いますから、大切にたっぷりお願いしたいです。
- ・ ワークショップの時間が短く、十分な意見交換ができなくて残念でした。初めて参加したので、「E.FORUM スタンダード」とパフォーマンス課題、パフォーマンス評価、ルーブリックの関係などがよく分からないままでした。
- ・ 時間が足りず、むずかしかった。作った人に直接聞かないとよくわからないところが一杯です。
- ・ ワークショップの時間の確保が必要だと思います。
- ・ それぞれの提案はおもしろく聞けましたが、「納得」や「改善点」等を見つけるのだとすれば、自分の興味のある教科の話をもう少しじっくり聞きたかったです。教科に分かれてからの時間が活動のねらいを考えると短すぎたと思います。

■ワークショップの進め方

- ・ ワークショップでは同じ教科の者同士、意欲的に意見交換することができたが、ファシリテーター不在の中で疑問が出されても疑問のまま残ってしまったことが残念であった(他の人の意見なので、私がどうこう言うことではないが)。
- ・ 話し合う議題をはじめに伝えてもらえたら、もう少し考えられたと思う。同時に自分の不勉強なところが明確になった。
- ・ 時間があれば、先生方にフロアまじえて全体セッションを設けても良かったのではないかと思う。
- ・ 各教科ごとに分かれて実施した方が良かったように思います。この研修に来ている方々は「交流したい」を目的にいらしている方も多いので…。
- ・ 正直言うと、他教科のお話を聞くのはやや辛かったです。教科別のグループでの討議をする時間を長く取っていただけた方が良かったです。

■難しかった

- ・ 本会に参加するまでに予習しておく必要性を感じた。もちろん、個人の問題であるが、厚かましいお願いをすると西岡先生が短時間でお済ませになられた「パフォーマンス課題」の概論を会(シンポジウム)のはじめに確保していただくとありがたい。
- ・ 「E.FORUM スタンダード」第 1 次案について、各教科からの報告が盛り沢山で、少々難しく感じながらもなんとか追いついていこうと頭の働きをフル回転させました。その後のグループワークの時間があまり取れず残念でしたが、改めて国語科の「本質的な問い」「永続的理解」の立て方の難しさを感じました。
- ・ 初めてこの研修に参加したので、最初は先生方のお話やスタンダード 1 次案の検討ということをすぐに理解できませんでした(もちろん事前に概要やこの研修会の趣旨を読んで理解してきたつもりなのですが)。一連のお話を聞き、グループで話し合い、1 日目の終了後、資料を読んでようやくこのスタンダード作成・検討の意義がじわりじわりとわかってきたような気がします。
- ・ シンポジウムは少し内容が難しい上に、皆さん早口だったので、ただただついていこうと必死で考えるヒマがありませんでした。ワークショップは皆さんと(同じ教科)このことについて話し合えて楽しかった。特に高校は教科内容の専門的なことは話題にしても教育目標について話し合うのはあまりないので。
- ・ ここに至るまでの経緯を知らないと理解が難しい内容でした。持ち帰ってゆっくり考えてみたいと思っていましたが、ワークショップでよくわかった人の話を聞いているうちに、自分の理解も急激に深まりました。ワークショップの威力を感じた企画でした。
- ・ 難しく、何を言っているのかわかりにくかった。資料があっちいったりこっちいったりで、どこを見ていいのかもわかりにくかった。
- ・ 始めの先生方の各教科の説明がとても勉強になりました。皆さん早口で、メモを取るのが難しく、お話の内容についての資料(パワーポイントなど)が少なかったので、(メモをしづらく)そこが残念でした。初めての参加なので、1 割くらいしかしっかり理解できませんでしたが、ワークショップでお話を聞くこともでき、私としては 150% ぐらいの収穫を得られた感じです。

④講演「知力を測る—多重知能理論への道」:子安

- ・ 知能について知見を深めることができた。
- ・ 教師は医師と同じく、無資格者・不適格者を排除する免許制であり、医師と異なり、10年での更新制をとり入れたのは、向上心がなかったり、不適格に対する排除が目的なのだろうか?
- ・ 教師と医師の類似点を切り口にして教育の効果の検証についてお話いただいた部分が、私にとってとても新鮮でした。文学部日本史学専攻だったので、知能研究小史なども、もっともっと学ばなければならぬと

感じました。後半の g 因子説などは、もっとお話を詳しくお聞きしたかったです。

- 全人教育につながるお話だということが大変印象的でした。ピグマリオン効果など、「怪しい」と思われるようなものが、どのように大切か、より考えてみたいです。
- 知力は一面的に捉えられるものではないというようなことはなんとなくは理解していたものの、その実際について理論的背景を順を追いながら、説明していただくことができ、もやもやしていたものが言語化されたような腑に落ちる感覚を味わわせていただきました。中でもキャッテルの提唱している結晶性知能やゴールマンの提唱しているEQの存在は、人間形成において、大きな意味を持つと思うのですが、その“知力”のあるべき姿、どうすればそれを高めていくことができるのかという方法論について、さらに知りたいと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- 知能について歴史と最新情報を教えていただき、頭の中が整理できて良かったです。現職5年目なので、10年ルールに従って、教育の専門家となるため、あと5年頑張りたいです。「人は誰もが長所を持つ」ということを多重知能理論(モジュールの考え方)から納得することができました。
- 専門的(大学でしか聞けない)内容を丁寧にわかりやすくご講義いただき、改めて現場を浮かべながら聞くことは楽しかった。
- 流動性知能や知能に関する包括的な説明などがわかりやすかったです。発達障がいの子童らを毎年担当しますが、総じてある分野の能力が突出しているの、相関性、能力の伸ばし方などをまた教えていただきたいです。
- 理論的な枠組みや研究史(自分では学ばない分野)ありがとうございました。
- 「何を測るのか」というところを明確にし、精査していきたいと思う。
- 「知能」について定義から色々と考えさせられる内容ですごく良かったです。ガードナーの多重知能理論についてもう少し詳しく知りたかったです。
- 知能とは何か、何を測るのかにより、測るものかわってくる。学校では、全人教育が必要であることなどを子安先生の講義で再確認しました。全人教育を行うには、教師自身の知能を高める必要があると思います。自分に不足している知能は何かを明確にし、研修を継続していかなければいけないと思いました。
- 「知能」とは何か?という根本的な問いかけを自分に投げかけながら、拝聴させていただきました。学校がすべき役割に至るまでを研究の歴史を丁寧にたどりながら説明していただけたので、非常によく分かりました。
- 子安先生、ありがとうございました。遠い昔に、きつと聞いたことがある内容も多く含まれていたと思いますが、今日は改めて生徒に向かう時に必要な知識だと

感じました。こういった理論を踏まえて、パフォーマンス課題を作り、どのモジュールを育てるのかも今後考えていきたいと思います。

- いつも生徒・学生には、できたことを褒めたり、励ますことを心がけておりますので、最後のまとめで「ポジティブな行動での関わりが大切」だと聞き、大変励まされました。
- 発達段階ごとに、それぞれの段階で身につくものが違うのではと思っています。現在の日本の学習指導要領は、そのようなことも踏まえて作られているのでしょうか。学年制で小中では年齢でどんどん学年が上がってしまうことにも本当にそれでよいのかと疑問を感じることがあります。
- 多重知能理論までの変遷を紐解いていただき、興味深く拝聴しました。でき得るなら、多重知能理論のことももう少し詳しくお聞きしたかったです。
- そもそも子安先生のお話を聞けたことが、私にとって非常に価値あるものでした。是非資料(パワポ)がいただきたいです。
- 多重知能理論は、上記のこととも関係があると感じました。数学の問題もいくつかのモジュールで同時に考えているのだと思います。
- 子安先生のお話、いつもわかりやすく多くの情報、知識を話していただけるので、楽しみにしています。またゆっくり聞かせていただける日を楽しみにしています。
- 教師は生徒に対して全人教育をなすべきであるということ肝に銘じて、生徒の能力を高めるために「E.FORUM スタンダード」の「本質的な問い」、「永続的理解」で身につけてもらいたい力を明らかにし、パフォーマンス課題を設定することが大切なのだと思います。
- 「師」のつく仕事であること、である責任感、学校が果たすべき役割は…今一度考え直さなくては…と感じました。
- 様々なパフォーマンス課題とその評価を考えていく上で、今日の多重知能理論は大きなヒントを頂いたように思います。経験的・感覚的に分かっている、それを言語化できなかったり、ましてやその根拠もはっきりしないことが多いので、多くの示唆を与えていただいたと思います。
- お話の中の1と2は、とても興味深く聞かせていただきました。その後の話も必要なものなのかもしれませんが、1と2を踏まえた上で、多重知能理論についての最後にされていたお話をもっと詳しくお聞きしたかったです。
- 多重知能理論をふまえ、全人教育をすることが学校の果たすべき役割だということが印象に残りました。
- 興味深いお話でした。個人的には『多重知能理論』について集中的にお話を伺いたかったと思いました。それから現場でよく活用されているWISCのお話も。このあと自分でも少し調べてみようというきっかけとなりました。

た。ありがとうございました。

- ・ 教育の目標(目指すものでも言うべきか?)を明確に持つとともに、それを子どもたち、保護者、そして本校の先生方にどう伝え共有するのが大切かと思いました。
- ・ 教育効果の検証として、証拠を示す、ことが大切だと分かりました。「多重知能理論からどんな教育が可能か」というところをもう少し教えていただきたいと感じました。
- ・ 知力についてのまとまったお話を伺うことは初めてで、新鮮でした。研究者の立ち位置の違いを明確に説明していただいた点が良かったです。
- ・ 教育“科学”として日ごろの実践を振り返る機会になりました。
- ・ WISC の知能検査について詳しく聴きたかったです！EQ については、先日新聞で見ていたので、よく分かって良かったです。
- ・ 「能力」と一言で言うこと＝汎用的能力としての「能力」の存在を前提とすることで見落としていることが沢山あることに気づきました。
- ・ 知を凶る視点が時代とともに変容したことが心に残った。その変化の過程の中に知力を測ることの意義や重要性を気づかされた。多重ということの意味、教育の具体に生かす可能性、たくさんのことを考えさせられた。
- ・ 知能の捉え方について大きな転換があったということ、主な考え方を網羅しながら知ることができ、有意義でした。今後、また大きなパラダイムチェンジはあるのか、あるとすれば、どう変わるのかに興味があります。また、7 つのモジュールのうち、なんとなく「個人/対人」は他のモジュールの上位でそれらを統合しているようなイメージがあるのですが、7 つのモジュールは並列的に捉えられているのですか？
- ・ 見えない知能を見える化する歴史を興味深く聞くことができました。多重知能の考え方に触れ、自分がすべてを平均的に到達させようとしていたように思えてきました。他者を含めて、合わせたバランスという発想もありかなと思いました。
- ・ モジュール説の方が、できないことよりできることを評価できるし、できないことは標準をめざせばいいのだと肩の力が抜けるし、大切な視点ですね。
- ・ わかりやすい話だったと思う。最後の方がもう少し時間があれば…詳しく聞きたかった。
- ・ 知能をどう捉えるか、一番大切なのだと思います。子どもが伸びていく方向を全体として捉えていくこと。生徒理解は全体で、ということでしょうか。
- ・ 多重知能理論につて、もっと詳しく学びたいと思った。そのことで、AL 学習や支援を要する子どもを含めた子ども一人一人の持てる力を十分に引き出し、伸ばすことができる教育のあり方を今、考える時期だと思う。

- ・ 知とは何か、どのように測るのか、歴史的背景も含め、アカデミックな視点でお話いただき、人間の持つ力について考えさせられました。それと同時にどのように知力を測っていくのか…いろいろと思いを巡らすことができました。
- ・ 自分でしっかり考えていきたい。
- ・ 楽しくてしょうがなかったです。終わったあとは、本当に苦しいです。
- ・ ありがとうございました。スライドと話を集中して聴くことができました。続きがどうなるのか知りたかったです。
- ・ 何をもって優秀である、とか、また支援が必要である、といった基準が知能(指数)という言葉で語られることが多いが、その歩みについてご教授いただいた。近年、支援学級の生徒もそのモジュールごとに入り込み授業という形で、通常学級に通っている。もっと一律と捉えずに、中学校でもその個の特徴に合わせて、自由さがあっていいのではと思いました。

⑤ワークショップ

「同僚・生徒とのコミュニケーションの取り方」: 平田

- ・ 「異性、異年齢とのコミュニケーションが大切」、「意見をまとめる力をつける」、「演じわける体力をつける」等、中学校現場にいる者としては、「やはりそうか!」という爽快感とズシッとくる重量感をもって聞いていました。まったく集中力が途切れることのない 2 時間半でした。
- ・ 貴重なお話をありがとうございました。オリザさんの語り口の魅力もさることながら、現実社会とリンクした「実際のグローバル・コミュニケーションについてお話いただき、感謝です。目から鱗の気づきが沢山ありました。
- ・ 日本社会におけるコミュニケーションに関する課題をわかりやすく説明していただいた。
- ・ ダブルバインドに合わせて演じ分けるのを楽しむような子どもを育てる、ということが印象的でした。また、「話す・聞く」力とは何か、答えが出ずにいたのですが、「冗長率の切り替えのうまさ」というのに目からウロコでした。
- ・ 「対話と会話の違い」→いい子を演じるのを楽しむくらいになる子どもに。→自分の結論がかわることを喜びとを感じるくらいに。とてもヒントになるメッセージをいただきました。
- ・ 対話を取り入れた授業づくりを各教科単位で取り入れていけるような提案をしていきたいと思います。
- ・ 平田先生のお話は本当に有意義でした。勤務校は文化祭で演劇に取り組んでいます。教科の中に組み込むことは現時点では不可能なのですが、本校なり演劇を通じたコミュニケーション能力の育成のアプローチをしたいと考えています。
- ・ ワークショップを学校現場で活用したいと思います。
- ・ コミュニケーション能力を高めていく授業をすすめる

中での評価方法についてどのように扱うのかヒントをいただきたい。

- 2011 年阪大文学部卒で、平田先生の教職の授業を数回受講していました！あの時にお聞きした話と今日とでは、きっと立場が違うからでしょうが、インパクトが全く異なっていました。府立豊中高校は今年 SGH となりましたが、迷走しています。管理職が“イスラーム”をテーマに課題研究すると言い、指定されてしまい、担当者が今すぐ何ができるのか手探り状態です…。けれど、今日のお話で、グローバル人材の意味・答えに少しだけ近づけた気がします！ありがとうございます。
- 何度か熱い思いがこみ上げてきました。心からわかりあうことなどできるのか、しかし「どうにかして」というのか心にさざります。SGH ですが、アルバイトが極端に少ないので、考えようと思います。
- とても幸せな時間でした。“コミュニケーション能力”というものをどう捉えていくべきか、教育の場でどのように考えていくべきかということについて、とても明快にお答えいただいた清々しさがありました。ダブルバインドが求められることが避けられないこの社会において、生きづらさを意識にのせながらも、しなやかに対応していける力というのは、とても重要であると感じました。今日のお話を聞き、私自身、皆が抱えている難しさはあるけれど、その中で他者と関わるマナーを身につけられる子どもたちを育てていくためにできることは何かを考えてみたいと思いました。平田オリザ先生、貴重なワークショップをありがとうございました。
- 協調性と社交性、コミュニケーション能力、対話、ワークショップ、などすっきりしました(高校での演劇は文化祭でやっていますが、かなり意味があると思っています)。
- 発想方向性のしぼりがとれて、勇気が持てました。ありがとうございます。
- 前半のワークショップは非常に楽しく学ばせていただきました。コミュニケーション能力については「慣れ」が大事だということや、今の社会で本当に必要(求められている)ことは何なのかについて考えられて良かったです。
- 一言では表せない程、感銘を受けました。講義の最中、ずっと話の中で与えられている課題について、自分なりに必死で考えながら、聴かせていただきました。Active Learning についても、自分では本当に表面的にしか理解できていないことに気づきました。何はともあれ、早速「宇宙兄弟」を読もうと思います。
- 平田先生、ありがとうございました。2 時間 30 分があつという間に過ぎてしまいました。コミュニケーション能力をととても難しいものだと考えていました。平田先生の話の中で、「うまくいかないのは、その場面のルールと設定が悪いからだ」というのがありました。教育者として生徒を育てていく場面で今後考えていかなければい

けない内容だと思います。今日は本当にありがとうございました。

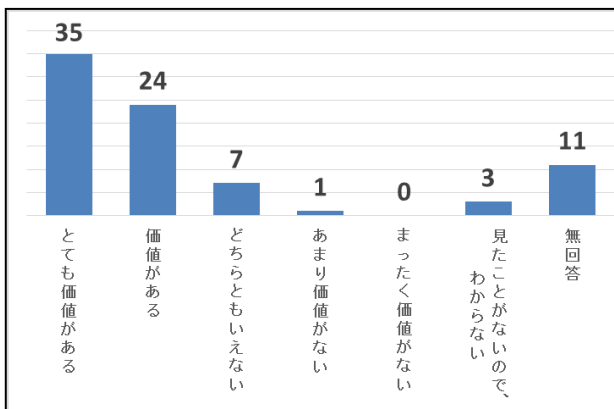
- ワークショップをやってみたかったのですが、今ファミリー力の方も興味があったので、そちらを観察させていただきました。ワークショップを盛り上げる声かけとか、そういうエッセンスももっと知りたかったです。中学校のテキストの話から大学院入試、多岐に渡った表現教育の大切さが大変わかりやすく、納得のいくものでした。コミュニケーション能力はマナーです。人格教育ではない。ガテンが이었습니다。
- アイスブレイキング的なゲームから始めて楽しい時間を過ごすことができました。またコミュニケーション能力の捉え方や考え方についても今まで知らなかったことも沢山あり、とても勉強になりました。
- すごい！！今の学校で問題になっていること、日々なぜそれが必要かモヤモヤしていたことが、パッと明るくなりました。みんな違っているから、それを一つにしていくのが大切だし、大切なものをみんなで気づいていくことが大切…パフォーマンス課題・評価、協同して学ぶ等々のことが、全てつながっていきました。参加して良かったです。おもしろすぎました。
- 現場で直面しているが、なかなか説明つかないことが、今日のお話の中で、「腑に落ちた」ところが多く、(日頃の問題意識を共有する人がなかなかいない立場なので)とてもスッキリしました。社会の中で生きること、または「会社とは舞台だ」といつも学生に話します。「社長・先輩も役割だよ」と言って、ハードルを下げています。今日のお話は大変参考になりますし、自分の理解や向かっている方向が間違いではない、と自信を持つことができました。ありがとうございます。
- 先端を行かれる平田オリザ先生のお話は刺激的でした。これからの時代にコミュニケーション力をつけて、学校、社会で生きていけばよいのか、という問題について多角的に見る視点が必要なことに気づいたように思います。
- ずっと演劇をやってきたのに、演劇は大人になってから趣味にできない(楽器とかテニスとかに比べて)なんて言っていた自分を恥じました。ただ、演劇って集団によって見方がまるで違って、私の母校の演劇部は華やかなイメージでしたが、勤務校では地味なイメージです。演劇人であることに誇りを持ち、頑張ります。職員室の中の話は？日本型コミュニケーションが私は苦手なので聞きたかった。
- すばらしいワークショップでした。コミュニケーションについての知識だけでなく、講演の方法についても間やテンポがすばらしく、最後まで楽しく聴くことができました。ぜひ、またお話をうかがいたく思います。
- 大変参考になりました。コミュニケーション能力(教育)についての理論と具体が大変よく分かりました。もっと沢山のことをお聞きしたいです。

- 「冗長率」の話が最も印象に残っています。言葉に敏感になればなるほど、無駄な言葉を省く教育(指導)をしてきたと思うからです。正しい知識(言語的な)だけでコミュニケーションが向上するわけではないということに改めて深く考えさせられました。
- あっという間の時間でした。ワークショップを体験しつつも、日本の教育から目の前の教室のことで考えることができました。全く初めての感覚で気持ち良かったです。
- 私自身が最も個人的な課題である同僚性について「はじめからはわかりあえない」、対話型のコミュ力について勉強になりました。来年度現場復帰するので、そういった環境づくりに大いに活かせると思いました。
- とても興味深く、(ワークショップに)参加し、お話を聞きました。ダブルバインドのことはきちんと考えてみたいと思います。
- コミュニケーション能力を教える現場において、なぜ今必要なのかということを知りやすく教えていただき、会話にひきこもらせていただきながら、楽しく時間を過ごすことができました。アウトプットをまとめていく(統一させていく)力が評価されているフィンランドの現状など、まだまだいっぱいお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。
- ワークショップから始めて、演劇とコミュニケーション能力、学びのモチベーションのつながりを考えさせられた内容でした。ありがとうございます。「対話力」がいかに必要な力かということが身に染みしました。一元的な「コミュニケーション能力」の捉え方ではない、わかりあえないからこそそのコミュニケーションの取り方について考えさせられました。
- あっという間に時間が過ぎました。「いやなことをいや」と言える子。感謝の気持ちを表せる子、素直に謝れない子、全てできない子がとても多くなっているように感じました。2 学期からの取り組み、がんばらなきゃ！！と思いました。
- 刺激的な内容で、あっという間に時間が経ちました。このような workshop を見るのも初めて、また「コミュニケーション能力」について勤務校でもよく話しますが、初めてコミュニケーション教育・能力について話を聞き、なるほどと納得できたことが多くありました。
- コミュニケーション能力に対する自分の認識にあやまりがあったこと、知らないことも多かったことに気づかされました。今の自分の目の前にいる子どもに必要なことは何なのかを早急に見直して、取り組みをスタートしていきたい。
- 学ぶことが沢山ある非常に内容の濃いものでした。世界で活躍されている方の視野の広いお話が聞けて、大変嬉しく思います。
- とにかく飽きない内容。深い洞察力、広い見識に脱帽。楽しい時間でした。世界の広さを再認識しました。今すぐできること、変えるべきことが見えてきたように思います。教員が変わらねば！と思いました。何か楽しい授業をデザインしたくなってきました。ありがとうございました。
- 先生の話そのものがコミュニケーション力の固まりだったですね。本当に素晴らしいと思いました。やわらかく、情報量があり、主張があり、そしてユーモアに溢れている…身をもって示していただいて感謝です。
- 産業構造の転換として、付加価値を生む教育(生徒にどのような発想が大切になるのかを伝えること)が重要だと感じました。
- 大変素晴らしいお話でした。才能の豊かさと質の高い研究によって、こんな魅力的な人柄とお話ができるのかとびっくりしました。休み時間もなくて大変だったと思いますが、聞き手としては、満足しました。ありがとうございました。
- 今の子ども達が置かれている状況がよくわかりました。「東京と京都市の中高一貫校しか東大に入れない」という話は衝撃でしたが、東大に入れるか否かはともかくとして、異文化と敵対しないでいられる力をつけてあげなければいけないことは痛感しました。
- “演劇”の大切さとこれからの教育の方向について大変刺激的な内容をおうかがいすることができた。また、具体的な授業に結びつけた多くの示唆を得ることができ、大変いい勉強になった。大学入試の改革についてもう少し知りたいと思った。
- 時間的には長かったはずなのに、あっという間に思えるほど楽しい時間でした。特に興味深かったのは、「追い込まれた時のチカラの重視」、「バラバラのインプットをまとめ上げる教育」、「会話と対話の違い」です。というか、全て面白かったです！！
- 経験に基づいたお話の力強さに圧倒されました。演じ分ける力の必要性は、必要に迫られ演じるにもつながるのかなと思いました。状況が求める役割を演じる力もあるのだなと感じました。
- コミュニケーション能力は、マナーと捉えたらよいということ、なにかホッとした気がした。授業の中で、自分の価値観がかわり、それが喜びにかわるようなプログラムを作ることを 2 学期から意識したい。ありがとうございました。
- グローバルコミュニケーションスキルと日本型のコミュニケーションのダブルバインドを受け入れて、したたかに生きていくような子どもを育てようという言葉に、先生の本音からの意見を聞けて大変ありがたい思いをした。良い子を演じられて、それを楽しめるようなしなやかさを具体的にどう育てられるか、どうマインドセットをかせられるかをよく考えて授業に盛り込んでいきたい。
- ワークショップも良かったです。具体例がありながらコミュニケーションの必要性、大切さ、その質など、とても良かったです。
- やっぱり期待通りとても面白かった。現実の生徒や人にあてはめた話で、理屈だけに走らないようにする必

要があると思いました。

- ・ 驚きの連続でした。「こういう動きをみんな知ってるの?」という感じでした。授業はやっぱり今まで通りではあかん!!という焦りがわいてきました。学校へ帰って、管理職に声を大にして言いたい。うちの2人の引きこもりのこともずーっと考えていました。そこが原因だったのね…。
- ・ グローバルコミュニケーション教育が必要となる背景を多面的に理解することができ、今後どのような視点で進めていくことがた大事なのかを理解することができた。
- ・ 演劇という糸口をきっかけに、初等・中等教育、大学生の就活、その他の選考試験から、人としての生き方まで、幅広い視点で気付きの多いお話でした。友達にならなくてもいいから、敵にならない社交性が大切とのこと。これも納得のコメントでした。とてもすばらしいご講演、ありがとうございました。
- ・ 劇作家・演出家として有名な平田オリザさんが現代社会・近未来社会の教育課題に精通されているとは思わなかった。的を射た視点でものの見方・考え方が良かった。

5. 「E.FORUM スタンダード(第1次案)」についての評価(グラフ)



6. 「E.FORUM スタンダード(第1次案)」の内容や改訂に関する提案についての意見

■国語科

- ・ 国語という教科にとって「本質的な問い」と「永続的理解」が立てにくいという点を明確にしてくださったことは、有益だと思います。それは、国語という教科が、何を教える教科なのかという長年の問いに重なるのですが、やはりスタンダードを定めるという方向に添うならば、分野(観点)を限定して考えるなどの手もあるのではないのでしょうか。
- ・ 1) 国語科において、「本質的な問い」と「永続的理解」を明示することの難しさは実感しているが、改定案をみると、やはり学習指導要領に近いものになってしまう。スタンダードとの違い(「多角的な思考」だけでは弱い

と思います)を明確にする必要があるのかも…。2) アクティブ・ラーニングの「学び方を学ぶ」視点を入れることはできないか?

- ・ まず、パフォーマンス評価を国語の中で取り組むことは、簡単なようで難しいものであり、とても考えられたものだと思います。だからこそ、多くの意見を出し合えたと思います。特にこれからは、国語/社会/…というような個別教科のスタンダードのみならず、・合教科、横断教科のパフォーマンスの模索、および・パフォーマンスへの出発点となる知識の集積と図書館との関わり、・実際に読んでいる過程でのパフォーマンスのあり方(読んだ後に、たとえ読めていなくてもできる課題ではなく)について、さらに良化できるスタンダードだと考えます。+実施細目のような個別事情に対応したスタンダード付録づくり。
- ・ シンポジウムの際、方法か内容かをはじめ、どの側面に焦点をあて、本質的な問いを位置づけるべきかということについての難しさが、ほぼ全ての教科にあることがわかった。その中で、思考力・判断力・表現力に土台をおき、そこから知識・技能等を捉えようとした動きは面白いと感じた。国語の枠組みをパフォーマンス課題とパフォーマンス(言語能力?)で捉えようとした試みは、もっと詳しく聞きたいところがあるが、暗黙の本質的な問いの存在が探究には必要ではないかという意見があった。その中で国語科における本質的な問いの形はどのようなものであるか、グループで考えはじめることができた。
- ・ 国語科(高校)の場合、「本質的な問い」、「永続的理解」の立て方が難しいと思います。
- ・ 研修センターの職員なので、国語科は単元を貫く言語活動を中心に研究しています。逆向き設計、パフォーマンス課題とは、よく似ていると感じています。小学校の場合、パフォーマンスの活動が使う教科書に限定されると感じています。教科書の「言語材」を使って、課題を設定することを考えています。パフォーマンス課題の実践例から各学年ごと子どもたちに何ができそうか見とることから始められないかと考えています。小学校では、教科書会社、学期ごとぐらいで活動例を示せないかと考えています。実践が増えることで、実践の中の子どもの作品からできることを読みとらないと、現場の先生方には実感してもらえないように感じています。小学校では、いつの間にか従来の学習手順で授業を組んでしまっていることが多いです。活動の順番が育てる力を決めてしまっているように感じることもあります。
- ・ 改訂されたものは、内容が指導要領とよく似たものになっていて、具体性があまりないように感じられた。単元に落とし込むと量が多すぎるが、例えば、読むことの中でもジャンルと学年ぐらいの区切りで課題とパフォーマンス評価を設定し、具体的に表現していつはどうかと思う。国語科は技能教科ではないので、いろ

いと難しい面もあるが、わかりやすいスタンダードになれば良いと思う(的はずれな意見でしたら申し訳ないです)。

- ・ 国語は「単元を貫く言語活動」というキーワードのもと、大幅な授業改革があるという認識です。私の世代がやってきた読みとりはなくなり、あくまで教科書の本文は教材で、それを参考にして、作品を作る、同筆者の他作品を読む…ということになるようですね…。何度か水戸部調査官とお話する機会がありましたが、氏は「国語に『単元を貫く言語活動』があるので、『パフォーマンス課題』は必要ない」とおっしゃっていました。逆にずいぶん「P課題」を意識しているな…と思ったのですが…。なので、E.FORUM スタンダードの中に「P課題」の設定が、単元を貫く言語活動の必要感となり(何を活かして、何ができるようになるか明らかにできるということ)、どんな資質能力を育てたいかの定義づけとなるように示すことができればいいのではないかと他教科(私の専門ではないがということ)のことでありますが、ちょっと書いてみました。それにしても…水戸部先生は小中の国語授業の大枠を大きく変革するつもりであるようで、参考にも作っているようですね。E.FORUM スタンダードでも授業論を大きく変えるような斬新な提案があるとおもしろいと思いました。
- ・ 話す、聞くという要素は本当に難しい。自分の計画通りに行くことなんて滅多にない。それをどう取り込んでいくか、その方法なんかを口頭発表の時には教えてほしかった。国語とは？文学とは？ということへの明確な答えが欲しい(答えはないのですが…)。

■社会科

- ・ 「本質的な問い」について、大きな「問い」の設定であり、「納得」だが、果たして生徒にとって、それは本当に「本質的」なものなのか、を考えたとき、教師が説明して生徒が「納得」するかな、と感じました。
- ・ 中学生でもどうしたらよいかという価値判断はできると思う。また、そこから自ら生み出した問いで再考できることは難しいが、10年前の実践と同じように教師の問いかけにより、思考することはできると考える。ただし、社会科の場合、個々の社会的事象についての生徒の認識の発達段階を考慮するというややこしさも付随すると思う。
- ・ まず、本質的な問いについて深めることが大切な段階と考えます。歴史の学習が自分の人生とどうシンクロするのかのイメージが大切かと思えます。
- ・ なるべくシンプルにまとめようと努力されているが、シンプルすぎると抽象的になり、深く踏み込もうとすると自由裁量の部分が失われ、難しいものだと思った。「網羅的な知識の克服」のためにも、どこまでに留めるのか、のラインを本質的な問いを元に考えなければならぬと強く感じた。
- ・ 高等学校の地歴科・公民科において、どのようにスタンダードを組み立てていくのか、多様なカリキュラム展

開のなかで、「スタンダード」をスタンダード化していくのは大変難しいのでは？

- ・ 社会科としてまとめるのは難しそうですね。地理・歴史・政治・経済・哲学など、学問分野ごとに各々の学ぶ意味があるので、そこをもう少し明確につかんだ上で、教科・科目の本質、特徴を共有していったらどうでしょうか。
- ・ 社会科の本質的な問いについて…事象や問題の特徴はなぜ・どのように見られるのか。これを理解したら→次はより良い社会の形成にとんではいますが、一人称の子どもの学びによる人間(能力)形成がまずあって、社会を変えていくのでは？歴史的思考力を培うことの意義と自身の価値判断の基礎となる力も必要ではないでしょうか。→それに知識・理解したことを論理的に多くの人に納得できるような解釈を組み立てることができる→より質の高い意識決定や価値判断の力がつくなど。
- ・ なぜ歴史/地理/公民を学ぶのか…あたりの話も大切か？思考力との対比の表がありましたか。その関連性をもう少し具体的に示せるといいのか？社会科はトピックが多い分、本当につけたい知(永続的理解)は何か、追求していかねばならぬが、さて、どのように単元化するか？！
- ・ 現場での実践例をもっと盛り込むべきだと思います。机上の空論に感じられることもありました。網羅的に全ての単元を載せるのは非現実的ですし、やりやすい単元とやりづらい単元があります。EFO でよいのでは。
- ・ 中学版については、子どもの作る作品の形態が魅力的とは言えないな一と思いました(実践をして、中学生が飛びつく形にしたいと思います)。さらに作品を何のために作って、誰に見せるのか(相手意識)なども明確にするとよいと思いました。そういう点を含んだパフォーマンス課題にしたらいよいと思います。まだ机上の理論にすぎないと思うので、実践を全国の先生方(参加者)に依頼して、フィードバックしたもので第2次案にしてはどうかと思いました。
- ・ 公民的資質を培うことを基本とした時に、公民的資質をどのように捉えているかを整理し、本質的な問いを設定すると、学ぶ必然性が説明できると思います。

■算数・数学科

- ・ 高校数学をぜひ作ろうということで盛り上がりました。
- ・ 領域間の横、そして小・中の縦の視点で関連を図ることも、可能ならば必要ではないか。すべて可能ではないかもしれないが。
- ・ 数学においては、真正の学習が導入では意識されても、単元末では、いわゆる応用・発展問題で結ばれることも多く、パフォーマンス課題を設定することで、例えばこの先、数学を専門的に学ぶことを選ばない生徒にも意味のある興味深い学習になれば…と思いますし、また数学の面白味に気がついて、より深めてく

れるようになれば良いと思います。

- ・ 数学のスタンダードづくりはなかなか難しいと思います。理解・思考・解くプロセスが答えは一つなのに、多様であるように考えているからです。
- ・ まだまだ勉強不足なので、わからないところが沢山ありました。言葉が難しいです。
- ・ “現行の指導要領の枠組みに縛られず”という点は良かったです。数学的モデリングが今の数学教員に足りないという点は同意見ですが、日常生活の事象を数学モデルにしていくには、中学生には知識が足りず難しい場合が多々あります。それぞれの学年で実現可能な日常生活の事象にはどのようなものがあるかという課題例が沢山出てくるいいなと思います。
- ・ まだまだスタンダードに提案を出すには、私の知識が足りません。もう少し勉強をして、実績を積んでから提案をさせていただきます。
- ・ (高校)E.FORUM スタンダードについては、参加前は「単なる理想」ではという疑問を持っていました。現実の学校現場でも、年間学習(指導)計画を各科目で作成しますが、ほとんど活用されないという状況です。しかし、先生方の提案を聞いて、そうではなく、より活用できる(しやすい)ものを目指して作っているということが分かり、大変共感しました。このスタンダードを理解するには、逆向き設計やパフォーマンス評価の知識が必要になります。初めての先生により分かってもらえるようにガイド作りを試みようと考えています。

■理科

- ・ 指導計画と同じにならぬようにすべきか。やっぱり具体例やパフォーマンス課題を載せた方がよい…。
- ・ 「本質的な問い」と「永続的理解」に分けてまとめられていて良かった。教育現場で意識してこれらの問いと理解に取り組みたいと思います。
- ・ 何を考えるのか、はじめはよくわからなかったもので、討論にほとんど参加できず、申し訳なかったです。最近、自分の授業の作り方として指導要領を読んで、教科書を読み込んで、そぎ落とせるところは、できるだけ削ってフローチャートのようにしてしまうので、40頁の表がすごく盛り沢山でちょっと困ったというのが正直なところです。
- ・ 改訂として話されたことや示されたものは、なるほどと思えることでした。ただ、せっかくの第1次案がどうなのかということが検証されないようで残念に思います。第1次案としてできているものを実際に行ってみて(使ってみて)、どうだったのかという検証はないのかなあと思いました。実践をもとに作っていったものだから、それは必要ないということなのでしょう。せっかく作るものなので、使いやすいもの、有効性の高いものになるとよいなと思いました。
- ・ 高校の理科を担当しておりますが、サイエンスにおける各自の思考力というものが、本質的に最も大事であるこの科目で、このようなスタンダードが提案されてい

ることは素晴らしいと思いました。小中に限らず、高校でもこのような内容を検討していかなければと思います。

■音楽科/美術科

- ・ 「創造」でなく、「鑑賞」、「享受」についても知りたい。

■体育・保健体育科

- ・ 「方法論に関する包括的な問い」について、「バランスのとれた」は、何を意味するのか、説明が必要ではないか。体育であるのに「運動」という言葉がない。「運動による教育」、「運動の教育」、「運動を通した教育」いずれにしても、「運動」という言葉は欠かせないのではないか。
- ・ 目的と目標を区別すること、技能中心の評価では、高校の目標である“生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる”ことを達成できないという北原先生の意見に賛同します。自分にあったスポーツライフを見つける手立てとして、どのような授業を組み立てるか、どのように手立てを見つけたかを評価すればよいのか、違う観点から考えることを始めなければいけないと思いました。技能+言語活動での表現方法を考えることが、教科体育の特性として、捉えなければならないと思う。

■技術・家庭科

- ・ 小学校家庭科は、自分の成長を見つめ直すために、家族との関係や家庭生活の衣食住の営みに係わる仕事の分担等を振り返る時間を大切にしている。学びの始めは、やってもらっていた自分に気づき、家族の一員としての自覚がもてるように、さらに家族を喜ばせる、役立つ、作り出す楽しさを味わえるよう、実践的な態度を育むことを目指している。
- ・ シンポジウムで発表された各教科の改訂の視点が、教科特有の見方・考え方で提案(提案された先生の研究領域で)されていて、家庭科としてどう解決していくのかが、やはり北原先生も悩まれていたところで、6人の先生で意見を出しても、可能性は見えたが、まだまだ乗り越えるには研究や人員が必要だと思います。
- ・ 提案いただいたことを熟読し、自己の考えを再構築していこうと思います。今後ご指導をいただけますようお願いいたします。もともと実験実習を重視する教科であり、授業での学びを実生活に活かすための「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ」という学習活動が学習指導要領の内容に含まれております。そのためパフォーマンス課題に比較的取り組みやすい教科であると思います。やはりその中で、どのように評価するかが課題です。
- ・ 改訂案の「本質的な問い」の設定から疑問を感じています。かなり検討が必要なものと感じました。また「改訂に向けて」の最後に、「総合的な学習の時間」との連携による可能性が述べられていましたが、「家庭科」は「家庭科」として存在し得る教科であり、強く違和感を持ちました。「総合」に限らず、他教科との関連はひ

とつ有効な手段ではあると思いますが、「生活とのかかわり」までを家庭科は持っている教科ですので、明記されることについては避けていただきたいと思っています。

■英語科

- ・ グループでも話題になったのですが、“発信意欲”を評価するにはどうすればよいかも含めて考えていただきたいです。
- ・ パフォーマンス課題を作成にあたって、教科の学習を通じて、子どもたちに何を身につけさせるべきかを考えることが必要で、改めて自分の教科を見直すきっかけとなりました。その一方で、単元ごとの「本質的な問い」や「永続的理解」をどう設定すればよいのかは、第1次案を見ても、十分に理解できない(=他の先生に説明できない)ままです。
- ・ 英語が「英語」である意味(中国語でも仏でもなく)、教科的にはそれほど重要ではないのですか? 個人的には非常に気になるところです。
- ・ 中学・高校卒業の段階で、どのような英語力(何ができるのか)を目標とするのかを設定(できるだけ具体的に)する必要があると思います。また、結果評価だけで良いのか、プロセス評価は連動できないか、意欲・感情表現の高さや、発話までのスピード等はどのように評価にとりくめるのか、それらを踏まえたスタンダードが必要では?
- ・ 実際の活動は、4領域の複合的なもの(例えば「書くこと」と「話すこと」が組み合わされたもの)もあるので、そうした例も挙げた方が良いのではないかと思います。また、単なる言語活動のみにならないよう、その根底となる部分をどう育てるか、を考える必要があると思います。例えば、スピーチをするためには、何分の考えを持つことが前提となるのか、その「考える」ことができるように指導していくことも必要だと思います。
- ・ (高校)最近思うことは、他の教科と違い、英語はそもそも自律的ではないので、国語や社会のように自在に操るまでにかなりの知識(語り)、ルール(文法)のインプットが必要であるということです。そこに、この教科のスタンダードを定める難しさ、評価の仕方の特異性があるのではないかと感じています。
- ・ 具体的パフォーマンス課題を会員に募集して、豊かにしていったらどうでしょうか。自分が作るとついついAL向けや姉妹都市の生徒に向けてActionを起すパターンになりがちですので、皆さんのものが見られるとヒントになると思います。また来年度から使われる教科書で(社名失念しました)、電話のかけ方が各学年に出てくるものがあります。どう高まっていくのか参考にするのと分かり易い例ができるかもしれません。

■その他

- ・ リピーターには不要かもしれないが、西岡先生による「概説」はもう少し時間をとってほしい。また、教科についてももう少し没頭して考えたいので、E.FORUM スタン

ダードについては、教科別(せめて文理実技別)で進めてほしかった。理解し、さらに提案するには時間が足りなさすぎる。科別で行っても最後に互いに報告する時間を設ければ、互いの考え方は見えると思う。

- ・ スタンダードと関係ないですが、初めて来た時は、何も予習せずに来て、何が何だかわからないままでしたが、今回、総合学習発表会で「防災」をテーマに扱うことになり、理科の授業の順番を入れかえたり、防災の方向から地震災害を見ることができました。逆向き設計の意味が少しわかったような気がします。条件統制のところ、はたらきや時間がよくわかりません。もう少し具体的になるとよいか。

7. 研修全体についての評価(抜粋)

①自身にとっての成果

■自己研鑽・課題の認識

- ・ 自分自身のスキルアップのため。
- ・ 多すぎて書き切れません。ただ、勉強をもっとしなければと強く感じました。
- ・ 教師は学び続けなければいけないと改めて感じさせてもらったこと。学び続けている先生方の姿から、学ばせていただいた。
- ・ 考えるきっかけを得たこと。
- ・ 日頃ゆっくりと考えること、対話することがいかになくなっているか、研修すること、対話の大切さ、自分自身の活動を振り返る機会を持ってました。ありがとうございます。
- ・ 「教師にとって、さまざまな引き出しを持っていることが必要であること」を再確認しました。
- ・ すぐに2学期が始まる、その日から活かせる点。今回気づいた視点で現場に臨めること。
- ・ 実践に向かう上での理論的な基盤を学び、先生方の体系的なお話や具体的なお話を今後の教育活動の中で思い返して活用していきたいと思えたことです。
- ・ 夏休み明けの教育活動実践への刺激、意欲の持続。
- ・ 自分自身をさらに磨く必要性があることを強く感じたこと。
- ・ たくさんの言葉との出会いによって、自分の中で整理されていない部分が少し明瞭になったことです。
- ・ アクティブ・ラーニングとして授業を見直そうという段階から、新たなねらいを共通認識して、教育を創造する段階にならなくてはと思って、学校に戻ろうと思います。
- ・ 自身の取り組んでいる海外研修(高校生・大学生対象)をどのように構成し、どれくらいの課題を出すべきか等を考える上で、大変参考にある知見を得られました。
- ・ 持ち帰って、じっくり考える内容・題材を頂けたこと。
- ・ ③の項目でもあるが、一時のネタの提供ではなく、本質的なことを学ぶことができた。
- ・ どんどん変化していく教育現場で、しっかりと今を見

極めて、対応するために学びを深め、課題を共有することができました。

- ・ 新しい学び、それをきっかけにしたさらなる学びへの推進力です。私自身の探究スパイラルにおける大切な学びの場です。
- ・ 高校での教務課学力向上の担当をしていますが、幅広い視野をもって、生徒に本当の学力をつけさせる指導というものを知る、非常に勉強となる研修でした。

■新しい視点や知見

- ・ 最新の教育事情に触れたこと。
- ・ 自分の知らない世界の動き、日本の教育界の動きを知ったこと。
- ・ 教育にかかわる最新の知見を学ぶ。
- ・ 新たな知見が得られたこと。すべて良かったのですが、特に「児童期・青年期の発達と心の理解」の講義はとても勉強になりました(詳しく知ることができてとても良かったです)。
- ・ 1)短時間でしたが、単なる方法論の獲得だけでなく、ネットだけの情報以上の内容(論の根拠)を知ることができた。2)しかも短時間なのにわかりやすく、疲れなかった。3)他教科のも聞くことができ、体系化された知の構造図が理解できた。
- ・ 初めて参加し、新しい情報が手に入った。
- ・ 分かり合う、察し合う、は世界で少数派だが、それだけでは善でも悪でもない、という話が聞けたこと。多様性を考えるカギになりそう。
- ・ 最先端の知識・情報と変わらない原理(パフォーマンス評価)に出会うことができる中で、充実した研修となった。
- ・ 多角的な視点からの知見(しかもすべて話がうまい講師による)、上記に触れたことでのモチベーション up、(自分がやりたい/やろうとしていることが、それほど的外れでないというほのかな自信)。
- ・ 多彩な講師の先生方のお話を聞いて、視点の転換になりました。
- ・ 新しい知見を得られたこと。
- ・ 京大の先生方のご講演による新たな知見の獲得。
- ・ これからの教育活動に生かされたこと。
- ・ 自分にない新たな視点を持つことができるようになること。
- ・ 発達心理や心の理論について専門的な知見に触れたこと。平田オリザ先生のお話が聴けたこと。
- ・ 本を読んで難しかったことが、大きな理解につながりました。やはり生で聴くのは大きな違いでした。平田先生の話は他でも聞いたのですが、90分のものとは違って、すごく濃かったです。何度聞いても新しい発見があるのだと感動しました。
- ・ 平田オリザ先生の話が、一番整理され問題点が何かをきっちり示していただき、勉強になりました。それぞれの学校、就く職業、生きる道によって、必要となる力は異なってくると納得しました。

- ・ コミュニケーションについてよく考えることができた。
- ・ コミュニケーション能力について、何が大切なのかを教えていただいたこと。
- ・ 本校の研究において、石井先生の考え方を土台にしたいと思っております。先生から直接話を伺うことができたことが成果です。また、県(府)によって、生徒を伸ばすプロセスが多様にあることが分かりました。

■パフォーマンス評価関連

- ・ パフォーマンス評価について書籍や論文で学んできましたが、それをどのように具体化していけばよいかということがわかりました。
- ・ 様々な講義を聴いて、たくさんの視点から学べたり、考える機会を与えていただいた。
- ・ “パフォーマンス課題”という新しい教育技法について学んだこと。自身の教育観に最先端の“知”をもって揺さぶりをかけられたこと。
- ・ 特にパフォーマンス評価について、最新の動向を知ることができたことが、一番の収穫です。
- ・ 先進的な取り組みをされている様々な先生方とお話できたこと。パフォーマンス課題について聞いたことはあったが、具体的に考えたことがなかったが、教科に落とし込んだ具体的な内容を伺うことができた。
- ・ 保健体育科のパ課題を作るプロセスを整理することができた。
- ・ パフォーマンス課題や本質的な問いなどを考える時に、それに付随する知識や理論は大切だと感じました。心理にしても知能にしても知っておく必要があると感じました。
- ・ パフォーマンス課題について悩みや認識を共有できたこと。新しい知識を沢山いただけたこと。

■E.FORUM スタンドアード関連

- ・ E.FORUM スタンドアードの存在とその意義について包括的に知ることができた。
- ・ スタンドアードの提案を聞くことにより、自身の授業づくりに新しい視点ができることです。今回のことを手がかりに自分なりに考えを深めていきたいと思います。
- ・ もやもやしていたことが、明確化してきた。スタンドアードを現場に降ろしていく光が少し見えてきた。
- ・ E.FORUM スタンドアードの意義がわかったこと。沢山の先生方と協議ができて、元気をもらえたこと。改めて今までの自分のやってきたことを振り返ることができたこと。

■参加者同士の情報交流

- ・ いろいろな学校の方とお話ができ、情報交流ができたこと。
- ・ いろいろな先生方とお話できたことです。
- ・ 多くの先生方との交流が持てた。
- ・ 新しい考え方、他府県、他校種の先生方との出会い。
- ・ 他の学校の先生とポジティブな話を沢山できたこと。一緒に来た同僚とも普段は話さないことを沢山話せた。なによりも悶々としているのが私だけでないのわかり、

学校で頑張っていこうと思えた。

- ・ 日本全国の学校の(教師)先生方のパフォーマンス評価の関心が高く、その方法等の熱き思いがあることに感銘しました。
- ・ 他の中学校の先生方と議論ができたことがよかった。
- ・ 全国の色々な教科の先生と交流ができたこと。
- ・ 今年も新しい出会い、そして刺激がありました。

■充実感・元気になる

- ・ はじめて 2 日間の参加をさせていただいて、ハードでしたし、脳をフル回転させ、「最後の充実感」が一番の成果でした。
- ・ 2 日間、たくさんの知が入ってきて、頭の中でグルグルグルグル考えたこと。
- ・ 日本の今後の教育のあるべき方向性を身をもって体験的に学べたこと。サッカーで言うと、日本代表の合宿に練習生として参加した感覚。
- ・ 全国の先生方と共に学んで、希望を持って元気になって帰京できることです。世の中には、こんなにすごい教員がいるんだと実感できることです。
- ・ 子どもと向きあう活力アップに効果のある栄養を注入していただきました。ありがとうございます。
- ・ 2 学期にむかって新たな気持ちを持ってたこと。残り少ない(!)教師生活を有意義に過ごそうと思えたこと。
- ・ あと 3 年意識を高く、気力を充実させて、がんばろうと思いました。元気を出して、明日からの授業をがんばります。

②自身にとっての今後の課題

■授業づくり・授業改善

- ・ 数学の授業づくり、学校での演劇の取り組み
- ・ 子どもが楽しいと感じる中で主体的な学びを保障する単元作りをしていくこと。
- ・ 現在勤務する学校において、生徒の学習へのモチベーションを高め、意欲的に取り組む授業を実践すること。そのために自らが学び続けること。
- ・ 体育科の地位の向上。「フルルの教科」という扱いを受けないよう、質の高い体育の授業を創っていきたい。

■目標・指導・評価の改善と一体化

- ・ 生徒が身につける学力(目標)をどう設定すればよいか、評価基準をどう設定すればよいか。
- ・ 探究、inquiry を教師の力で普通に日常的にやる一評価の改善。
- ・ AL 型授業を進めるためには、日常的に生徒の活動をしっかり見取り、評価する必要があるので、指導目標と指導、評価の一体化を一層明確にした教科指導力を備えること。

■パフォーマンス評価関連

- ・ 探究活動における評価
- ・ パフォーマンス課題とは何か?
- ・ “パフォーマンス評価”の実践。
- ・ 単元の本質的な問い、単元の理解→永続的理解に

つながるような問いの構成。

- ・ 「本質的な問い」を考えることや、それに即した教材をつくっていく(意味づけしていく)ことだと思いました。
- ・ 社会科における「本質的な問い」と「永続的理解」を根本的に考え直し、小中高との関連で設定することです。
- ・ パフォーマンス課題、パフォーマンス評価について、もう少し勉強せねばと思った。知力を測る子安先生の話には、大きなヒントがあった。授業においても生徒のあらゆる知力が試せるようにしたいと思った。
- ・ 現場におけるパフォーマンス評価の実践。
- ・ 国語科における探究を深め、言語能力の質を高めていくのは、本質的な問いだと思うが、それがどのようなものであるべきか研究していきたい。
- ・ 美術に関しては、学校空間(学校美術)とアートシーンが断絶しているところがあり、美術の良さを味わう(特に現代美術)態度を養うところまで持っていかず、授業で完結してしまい、生涯にわたり、親しむ姿になっていない。限られた時間数の中で、②の課題を解決するため包括的な「本質的な問い」、「永続的理解」を構築し、実践していきたい。
- ・ ルーブリックがやはり難しいです。
- ・ パフォーマンス課題を日常的に組み込むようにしていきたい。
- ・ 限られた時間の中で、パフォーマンス課題などを具体的にどのように年間の指導計画の中に組み込んでいくか。
- ・ パ課題を作るための小中高の学習指導要領の読み込みと系統性の整理をしていきたい。
- ・ 子どもにとって魅力的なパフォーマンス課題づくりと評価の工夫。
- ・ 真正の学習とは何か。パフォーマンス課題における評価の仕方、ルーブリックの作成。
- ・ 英語科での CanDoList の作成。
- ・ 逆向き設計、パフォーマンス評価など、理論は分かってきました。今、必要なのは、経験だと思います。どのようにして学んだことを使って、生徒たちの学びに繋げていかを課題とします。
- ・ ルーブリックを豊かにするというで悩んでいます。英語の書くパフォーマンス課題に取り組んでいます。どういう視点でどう具体化すればよいかということですが。
- ・ 算数の評価と P 課題をどうするか。習熟度別指導の中で、E.FORUM スタンダードをどう活用していくか。

■E.FORUM スタンダードづくり

- ・ スタンダードの意味をみつけること。
- ・ まずは家庭科のスタンダードづくり。2 つ目は教材・課題づくり。3 つ目は家庭科教育についての研究。
- ・ 高校の社会一教科は歴史と地理、公民も政経や倫理のスタンダードを科目別に作る努力がいりますね…もっと議論したかったです。

- ・ E.FORUM スタンドを参考にして各学校でのスタンダード作りを手助けできるようなガイド作り(単元計画書を作成するためのガイド作り)。

■教員研修・教員間のコミュニケーションと協力的体制づくり

- ・ 学校内でパフォーマンス評価を広めること。
- ・ 「包括的・本質的問い」を本校の各教科がどう捉えているのか、各学年・各領域での統合的検討を全教員で取り組まないといけない。
- ・ パフォーマンス課題を教科で実施する場合、全校的協力が必要なので、導入できるかどうか、生徒たちの反応など。
- ・ 総合的な学習の時間(探究)の指導を全職員のものにすること。教科間の連動。
- ・ ワークショップやコミュニケーションを取り入れた職員に向けた研修のスキルです。
- ・ 集合研修と校内研修をつないだ研修、校内研修をパフォーマンス課題とした研修を3日ものぐらいで計画したい。
- ・ 教員に楽しさを広げること。
- ・ 今回の研修で得たことを周囲の人にいろいろな形で伝える。E.FORUM スタンドについて考えてみる(少し進学したいと思っている)。
- ・ 学校の中の世代間コミュニケーションと若手育成でしようか。
- ・ 教科等の資質・能力をどのように可視化・明確化するための方法を(教師)先生方に伝達するかです。
- ・ 今、教育に必要なことを同じ学校の同僚に伝え、一緒に実践していく、実践していこうとする雰囲気をまず作る。
- ・ 自分の立場で何ができるか、特に学生への指導方法を他のトレーナーに指導する時のやり方を再考しようと思いました。
- ・ 学校の中の組織やシステムをどう作っていくか? どう負担を減らして、楽しく仕事しながら教育の質を高められるか?(労働環境)

■子どもの発達段階に応じた指導

- ・ 子どもへの関わり方(発達とからみながら)
- ・ 子どもの発達段階に応じた主体的な学習のあり方について(特にAL型授業が形だけに終わるようなことにならないようにしたい)。
- ・ 生徒が成長している過程をいかにみとり、生徒が実感できるような手立てを講じるかどうかという点です。
- ・ 発達障害的な生徒との関わり方。英語の効果的な教授法(生徒の能力の伸ばし方)
- ・ 普通学級にいる発達に課題をかかえた子どものフォローを具体的に紙面におこす。

■コミュニケーション能力の育成

- ・ 授業におけるコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・ コミュニケーション能力の育成。
- ・ キレない、あきらめない対話力をいかにして身につけさせるか。

- ・ 子どもたちの対話力を引き出すための学びのモチベーションを高める指導の方向性を考えなければと思います。

■その他

- ・ 教科教育を通じた学校教育・経営のあり方についての探究。
- ・ 多忙である教員が、今後どのように課題解決できるか。
- ・ 考えてみると、どんどん合科的になっていくので、自分自身の疑問、理科だけを追求するのか、他の教科との関わりをもっと明らかにしていてもいいのか。地形などを話すと、産業に話が及ぶことがあり、生徒たちは、「それ社会じゃん」と線を引きすぎて、興味が広がらないので、こちらとしてはすごくつまらない。
- ・ 評価と進路(受験)。
- ・ 勤務校で多様な業務を回さないといけない、表面的に今の「はやり」を言葉だけで扱っていたことが多く、自分自身が嫌だったのですが、この研修会を機に、これからの社会や本質的なことをじっくり考えていきたいです。
- ・ 群馬は教育熱心な地域だと思っていましたが、(各地の話聞き)保守的なんだと思います。学習内容が増えた(以前に戻った)ことで、より管理的な学校・授業の流れになっています。それを質的に(児童主体のものに)変えなければと思っています。
- ・ 英語以外の教科でも、英語をどのように取り入れたらよいかを課題として検討しています。
- ・ 今回の研修を現場に活かすこと(具体的に)。
- ・ 今回のお話を自身の目の前の生徒たちと関わる場でどう工夫し、生かしていくかを考えていくことです。
- ・ これまで培ってきた教育観を整理したいと考えています。

③研修の良かった点

■研修の内容

- ・ 平田オリザ氏の講演。実技あり。
- ・ 各分野の最先端にいる方々のお話をお聞きできたこと。
- ・ 講義の内容の専門性・豊かさ。
- ・ 私たちの学校でも教育講演会はありますが、ここでの内容は学問的な裏付け要素が強いので、ついていくのは大変ですが、学びごたえがあります。
- ・ 話題がタイムリーでバラエティに富んでいること。
- ・ 大学の先生の講演を聞ける点。
- ・ いろいろな方向から教育を捉えることができます。教育心理学とか発達心理学とか忘れてました。
- ・ 今、知りたいピックやテーマでの内容に満足しました。
- ・ 学校教育の今の課題に焦点を当てた内容であることです。
- ・ 現場では得られにくい知見を得られることをうれしく思

う。

- ・ 内容が濃いこと。
- ・ 講師の先生方の話題が色々であるのが、本当にすばらしいと思いました。
- ・ 毎年異なる分野の先生方のご講演を聞くことができること。
- ・ 教育実践の土台となる理論やその背景を直に聞けるところです。

■講義とワークショップのバランス

- ・ 質のよい授業＝子どもの理解や思考を深めるための講演とワークショップが mix されている点。
- ・ 複数の講義・講演を聴くことができ、有り難いです。
- ・ ワークショップが取り入れられるなど参加型の面と、たつぷりと講義を聞く時間と両方がうまく組み合わせてあったこと。
- ・ 多岐に渡る内容、座って聴く講演と実際話す場面がおりまぜられていたこと。
- ・ ワークショップがあること、講話もあり、この 2 つのバランスが良いことだと思います。
- ・ 講義だけでなく、ワークショップが組み込まれている点。
- ・ 充実した講義とワークショップ、懇親会もネットワーク作りに役立ちます。
- ・ 多種多様な講話・ワークショップがあること。
- ・ ワークショップを通じて、様々な学校の様子を聞くことができたり、それに即しつつもより一般的なことを考えていける点が良いと思います。
- ・ プログラムの質の高さです。
- ・ 幅広い分野からの講演を準備していただき、ありがたい。
- ・ 様々な分野からのアプローチがあるが、柱がしっかりしているので勉強になります。

■参加者との交流・認め合う雰囲気

- ・ 参加者同士の交流がある。
- ・ 多様な意見、視点と出会える場であること。
- ・ 参加者との交流が持てる点。
- ・ ワークショップにおいて、他県の方と意見交換ができること(E.FORUM スタンダード)。
- ・ 仲良く話ができること。
- ・ 協同的な学びが随所にあるところ。
- ・ それぞれがこだわりを持っていることを同じ目的に向けて、話したり聞いたりできること。
- ・ 専門の先生の講演と全国から研究熱心な先生とお話ができるという貴重な研修の場であり、継続をお願いしたいと思います。
- ・ 内容が盛り沢山で遠くから自費で来ても満足感があります。認め合う温かな雰囲気がよいので、また来たいと思います。
- ・ ワークショップ、自己紹介など、知らない先生方と会話できることが良い。夜の懇親会に参加して、それが一番勉強になりました(人と交流することで自分の考えが

定まってくる)。素晴らしい先生方のためになるお話もとても良かったです。

- ・ 参加者同士の交流、現場ではゆっくり学べないことを学ぶ場。
- ・ とても集中できる環境をつくっていただき、感謝します。
- ・ アイスブレイキング・BGM、茶菓等の配慮があり、落ち着いたムードの中、過ごせた。ワークショップ形式。
- ・ 間の時間がゆっくりとられているので、のんびりした気持ちで受講できるのがとてもありがたいです。
- ・ 熱気のある、かつ親しみやすい雰囲気。(お茶菓子)
- ・ なごやかな雰囲気の中で、しっかりと研修を深めることができ、有り難かったです。
- ・ 自己紹介の時間を入れているところ。
- ・ とても有意義で心地よい時間でした。

■研修の進め方

- ・ いろいろな内容があり、スタッフの方もおり、とても良い雰囲気です。学習させてもらって感謝しています。
- ・ 丁寧な運営に本当に感謝でした！
- ・ 時間厳守
- ・ スピーディーな点。
- ・ 最先端の教育に関する研究に触れることができた。ほぼ時間厳守して、進行が行われたこと。
- ・ 西岡先生、石井先生がとても気を遣って、楽しく意味のある講座をすすめてくださいました。ありがとうございました。
- ・ 午前と午後の講義・講演をゆったり聴けたこと。詰め込みすぎではない点。
- ・ 初日の午後のシンポジウム&ワークショップでの提案があり、それに対する協議ができて、参加者の思っていることと提案が近づいていく点。
- ・ 研究者の話が聞ける。休み時間が長い・弁当が準備される→昼休みに知り合った人と交流する時に便利。

④研修の改善すべき点

■参加者同士の意見交換・ワークショップの時間不足

- ・ 1日目の午後はやはり忙しすぎて、もう少し時間がほしかった。でも一番の原因は自分の勉強不足です。
- ・ 『E.FORUM スタンダード』を再検討するのご提案、ワークショップともに時間不足であったこと。いわゆる主要教科のご提案時間は比較的長かったが、その他の教科については、短すぎた。
- ・ もう少しグループワークを増やしていただきたいです。
- ・ ワークショップに関する説明の時間、ワークショップの時間を増やしていただけると嬉しいです。
- ・ 1日目午後のワークショップの検討の時間がもう少しあると…。
- ・ 平田先生の話の後、グループで話し合う(感想を出し合う)機会があってもよかったですかなと思いました。
- ・ 講義やシンポジウムを受けて、参加者同士で意見交

換できる機会があれば良いと思う。

- ・ もう少し他の学校の先生方とお話する時間が欲しかったです。
- ・ Standard についての意見交換の時間。1 次案作成者の先生方との議論が十分にできなかった。
- ・ 今回は質疑応答が少ないのが残念でした。あと、もしこんなだったらと思うのは、中間くらいで質疑応答してもらって、オーディエンス(私たち)が何を聞きたいのかで、また後半が私たちに近づいてくれるといいなあと思います。ルーブリックの提示じゃないですが…。
- ・ 今回は、参加者同士で話す時間が少なかったように感じました。情報や考えの交換ができる時間が少し増えると嬉しいです。
- ・ 参加者同士のディスカッションがもう少し多くとれるとよいな…と感じます(テーマを持った上で)。
- ・ 参加者の交流する時間がもう少しあればと思います。
- ・ ディスカッションの時間が欲しい。パワーポイントのずっと一方通行の授業はしんどいし、お話を聞いて色々思っても、output できない。
- ・ 今回に関しては、講義の時間が長かったので、演習・交流がもう少しあるといいかなと思いました(スタンダードの検討の話し合い時間がもう少しほしいと思いました)。

■E.FORUM スタンダード(ワークショップ)の進め方

- ・ 第一日目のシンポジウムは、はじめから教科別でもよかったのではないかな。そして、その時間に 2 つの教科(1 つを 2 回も認める)を回れるようにしてはどうか。
- ・ スタンダードの見直し(再検討)は、時間的な面と方向性の(新参者には理解するだけが精一杯で)共通理解の面で無理があったかなと感じました。
- ・ ワークショップ(1 日目)で大学院生さんでも結構なので、グループに参加してもらえたらもっと良かったかと思いました。
- ・ パフォーマンス評価について半日はしっかりと取ってほしい。
- ・ 「スタンダード」の検討については、今回の中心的内容なので、充実させたいところですが、全教科をこの時間内で把握するのは無理なので、解説・説明からグループに分かれても良かったのではないのでしょうか。
- ・ 8 月 22 日のスタンダードの再検討は難しかった。全体を進めるには、別の方法が必要だと感じました。それに各教科で考えると、意外に作りやすい教科とそうでない教科があることが分かりました。
- ・ パフォーマンス評価についてより詳しい知識や実践などを知りたいと思って参加したので、それについての時間がより多くあると良いと思いました。(まだ研究を始めたばかりで知らないことが多いので)西岡先生のお話を丸一日聞きたいと思います。

■機材の不具合

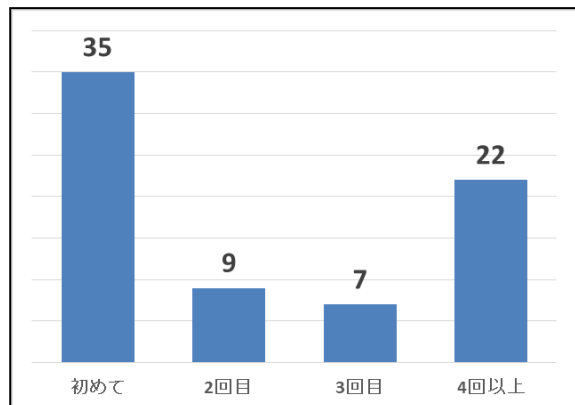
- ・ マイクの電池切れによって、音が聞き取りにくくなったこと。

- ・ PC の操作や電池などの機器関係(講義中にたびたび不具合が見受けられたので)

■その他

- ・ 聞くのが多かったのもう少し動きたかったー。
- ・ 教科と総合の間の関係
- ・ 用語が難しくついていけないことがあります。用語集があると嬉しい。特にカタカナの言葉や頭文字だけで表現されたこと
- ・ どうもありがとうございます。素晴らしい研修なので、自分の周りでも広めていきたいと思っています。「スクールリーダー育成研修」という名称が若手教員には負担になっているのかもしれない。
- ・ タイムテーブルをどこかに掲示していただけると嬉しいです。講義者のご著書を販売していただけると嬉しいです…無理なら注文しますので大丈夫です。
- ・ 今年が 10 周年で特別かもしれませんが、2 日間通してのテーマのようなものがあつた方がよいと思った。
- ・ 来年もよろしく願います。スタンダードも皆で力を合わせられると良いですね。
- ・ 先生方、そしてスタッフの皆様、すばらしい 2 日間の研修をありがとうございました。来年も来たいと思える研修でした。
- ・ 2 日間が私とすると限度だと思いました(3 日間参加となると難しい)。進め方・内容ともに良かったです。スタッフの方々の温かいおもてなしの雰囲気が好きです。
- ・ 盛り沢山の内容で、充実した内容でした。お世話になり、ありがとうございました。

8. 回答者の E. FORUM への参加回数



9. E. FORUM へのご意見・ご要望(抜粋)

■研修内容

- ・ 対話力をいかにして育成していくのか。アクティブ・ラーニングの授業や評価について。
- ・ 学習者が主体的に取り組める授業づくりに関する内容
- ・ どんな生徒を育てたいかについての話し合い。目標って何だろう。生きるとは。
- ・ 板書法のアイデア交換の機会があれば、ありがたい

す。

- AL 型授業における評価のあり方。学習が定着しやすい学び方。
- パフォーマンス評価をはじめ、ここでの理論を実践された学校、もしくは先生方の実践報告をうかがいたい。できれば、校種別にして議論できる時間がもっとあれば、ありがたい。
- 4 教科(技・家・保)についても、研究者の方々との検討があれば嬉しいです。(北原先生しかおられなく…)
- 北欧の教育モデル(特にアート)について知りたいです。
- 小→中、中→高の連携について。異なる教科の間での連携について。
- ワークショップなどのように現職教員が学生の時には未体験、または慣れていないものについて学ぶ場。社会の変化が要求する教育の変化とそれへの具体的な対応について。
- 入試改革。学校の特色づくり(文部科学省等の指定 SSH、SGH などに関連して)。
- 行動分析学、奥田健次さん、ちょっと気になります。道徳の教科化もよくわかりません。
- パフォーマンス課題を実際に作ってみるなど、実践的な内容や、「教育とは」という根本的な考えを見つめ直す講義を伺いたいです。また来年伺いたいと思います。
- パフォーマンス評価・課題の実践報告を聞いたら嬉しいです。
- 子安先生と平田先生の講演を聞きたいです。
- 校種(小・中・高)別、かつ教科別の新しい授業法・評価法の勉強会。近頃のニュースで、人文社会学系の国公立大学の再編及び消滅(?)が話題になっています。一昨年まで国立大学法人の附属中学校に勤務していました者として、国立の教育大及び国立大の教育学部の存続を強く望みます。教育(人を育てること) = 日本の宝物を育てることですから。
- 「私の学校の校内研究はこうやっています」という企画があったら嬉しいです。
- グローバル化のことも含め、今後の英語以外の教科での英語を取り入れた指導というものが課題となっております。小中高の連携で英語をどのように扱ってあげればよいのか、専門の先生に最新の情報・動向を講演、指導をしていただければと思っています。

■開催日

- 土日開催はありがたいです。
- 平日に実施していただくと参加しやすい。
- 平日の方が良いです。
- できましたら、金土の 2 日、日月の 2 日と平日を含めていただくと公費出張できますのでありがたいです。

■その他のご要望・メッセージなど

- 京大出身者を講師として展開してほしい。
- ノートをとりたいので、フロアをあまり暗くしないでほし

いです。特に後列はライトが欲しいです。

- 他教科の提案を聞くことで、どの教科にも共通する点と差異がよくわかり、その発想を取り入れるべき…と思われる点があった。しかし、短時間だったのが惜しく、自分で熟考することが難しく思いました。もっと多くとってあってもいいかも…。
- 懇親会、沢山の先生方の熱い思いを感じることができてとても元気をもらいました。このネットワークがもっと広がっていくとよいと思います。
- 休み時間や交流会で、色々な先生方と出会い、話げできました。ありがとうございました。
- 私が在学中に、授業のコメントやレポートを書くのがあまり苦にならなかったのは、このスピード感の中で、自分の頭フル回転で、授業を聞きながら、いろんな疑問を持ち、連想をし、テンションが上がっていたからだと、久しぶりにここで学ぶ機会を得て思った。だから、今の私の生徒にもテンションの上がる授業をしたいと思う。
- 今回のような日常の現場の忙しさの中では知ることのできない大きな、あるいは根底的な変化のお話を知りたいです。スタッフの皆様、ありがとうございました。
- 今年度があまりにも自分にとってこれ以上ないくらい満足できるものだったので、今は思いつきません。
- どうしても参加したいと思っていて、けれども昨年までは勤務校の研修の都合でそれが叶わず、けれども念願叶って、今回ようやく参加できました。たまたま 10 周年ということで、E.FORUM スタンドの検討に触れることができ、貴重な機会でした。これまで小学校算数でパフォーマンス評価に自分なりに取り組んできたが、西岡先生、石井先生から直接お話を伺うことができ、自分の取り組みを見直すことができました。今は教頭という立場で、どう活かし、広めていけるかを考え、行動していこうと思います。ありがとうございます。何か疑問なことがありましたら、E.FORUM 宛等に連絡してもよろしいでしょうか。
- E.FORUM スタンドの難しさを感じています。このスタンドを今後どのように広めていくのか、活用を図るのかによりますが、あまり難しいと広く先生方にご理解、ご活用いただくことは難しいのではないかと考えています。そんな簡単に分かる理論もないと思いますが、分かりやすく、伝わりやすく整理していくことも、とても大切なポイントだと思います。
- 今年の夏、はじめて参加しましたが、今後も参加しつづけてたいです。本当にありがとうございました！！
- いつも新しい視点や先生方のお話をお聞きすることができるので、よい機会です。来週から 2 学期が始まります。エネルギーをいただき、また来年も来たいです。ありがとうございました。
- 10 周年おめでとうございます。いつも充実した学びの機会をいただき、感謝です。
- 年々、懐の大きさ、安定感が増してきている感じがしま

す。この調子で何十年も続けていただきたいと願っています。

- いつもいつも本当にありがとうございます。皆さんが仲良く楽しそうにしている姿を見て、「いいなー」と思います。本校も同じように仲の良い仲間と一緒に頑張っていきたいと思います。
- 初めて参加しましたが、とても勉強になりました。パフォーマンス評価を実践していくには、経験が大切であると研究をしていて感じています。全国の先生方が最初の一步を踏み出すためのきっかけとして、このE.FORUMがその役割をしていくのではないかと考えます。これからも勉強させていただきます。よろしくをお願いします。
- 10周年おめでとうございます！2008年の冬からお世話になっています。特に印象深いのは、2011年春の実践交流会です。これからも発展し続けるE.FORUMであるよう、皆さんの力の結集が必要ですね。